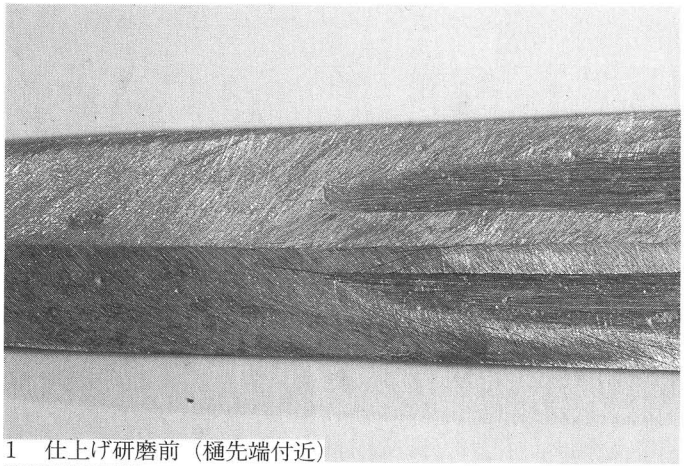
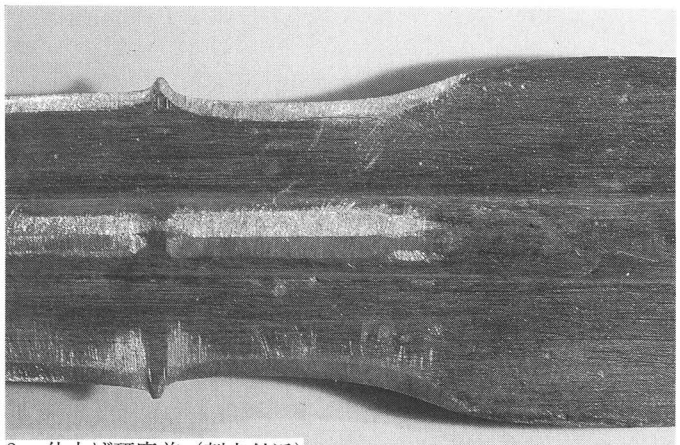
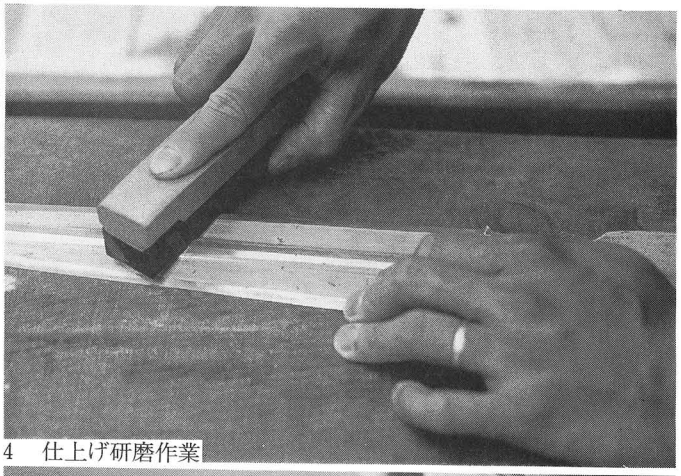

1　仕上げ研磨前（樋先端付近）

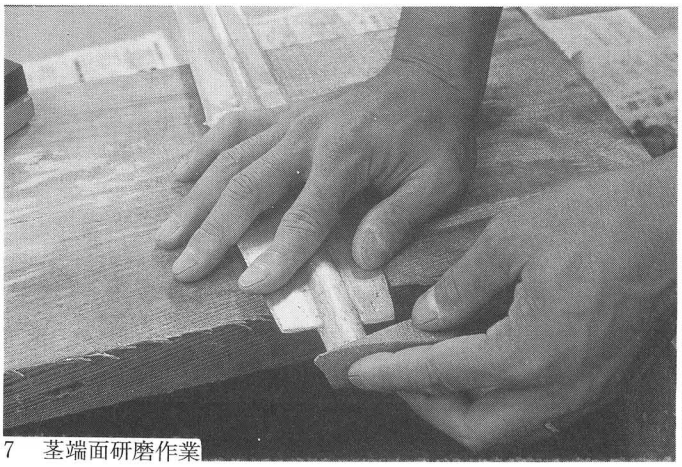

2　仕上げ研磨前（刳方付近）

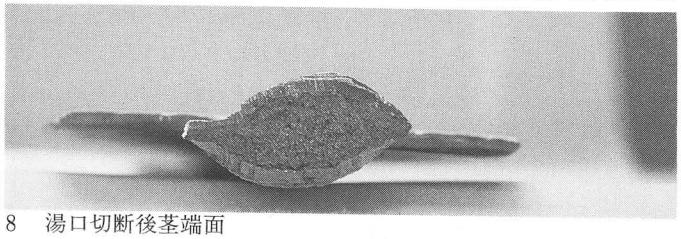
3　仕上げ研磨作業


4　仕上げ研磨作業

5　仕上げ研磨作業

6　湯口切断作業


7　茎端面研磨作業


8　湯口切断後茎端面

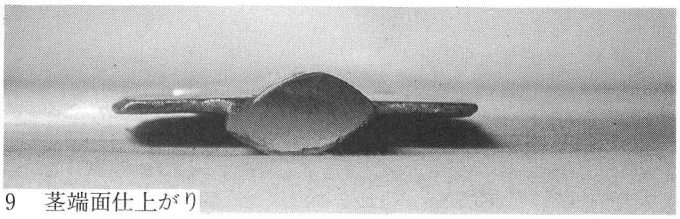
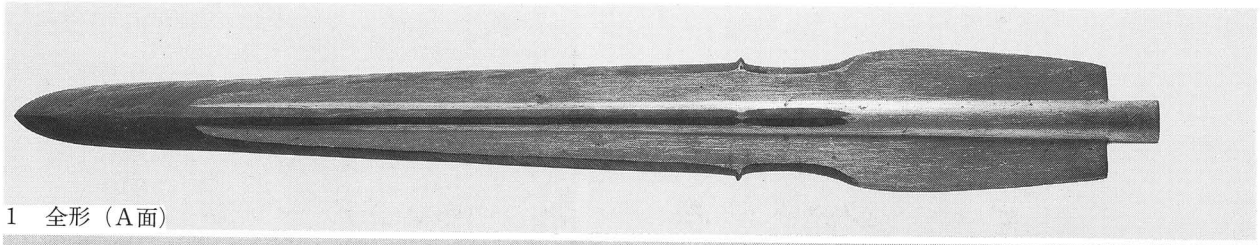
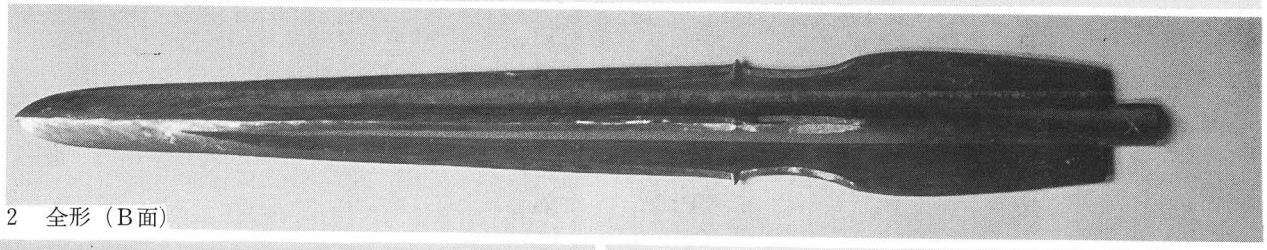

9　茎端面仕上がり

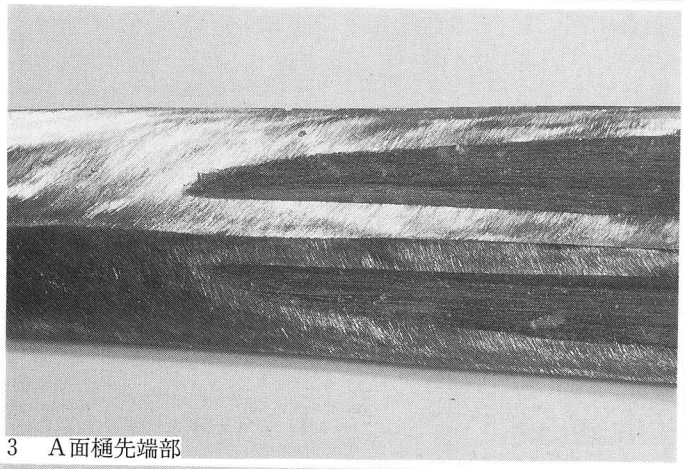
写真５　研磨（仕上げ）・湯口処理



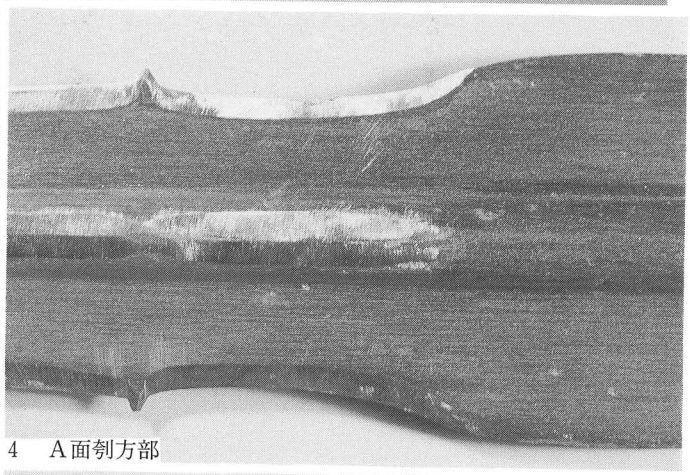
1　全形（A面）



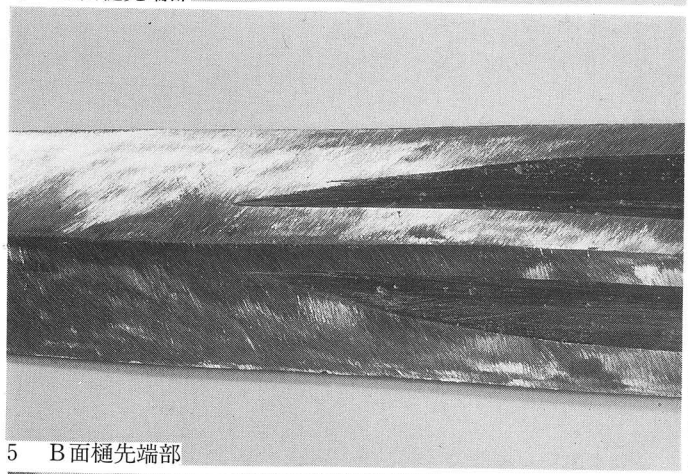
2　全形（B面）



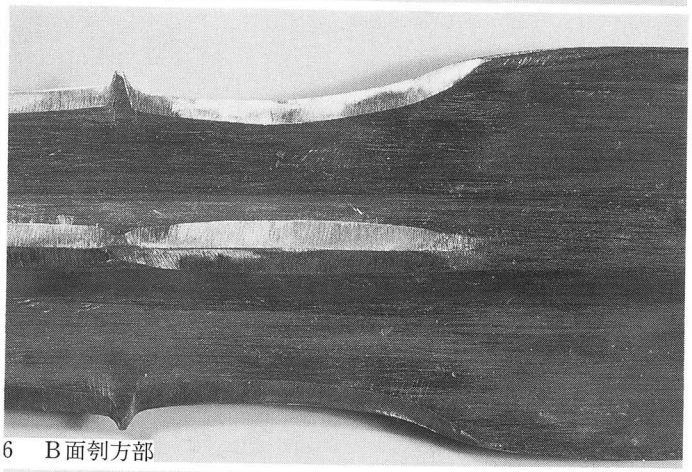
3　A面樋先端部



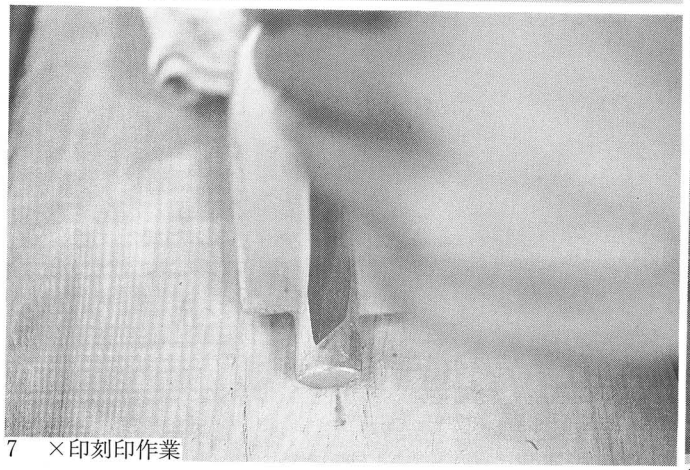
4　A面刳方部



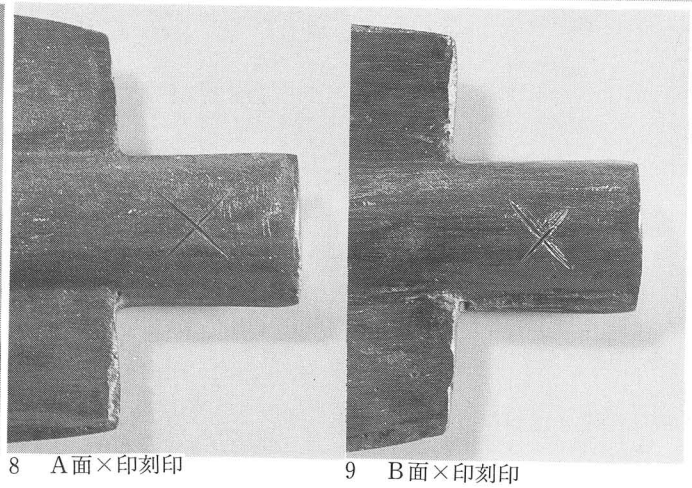
5　B面樋先端部



6　B面刳方部



7　×印刻印作業



8　A面×印刻印　　9　B面×印刻印

写真６　仕上がり

第２章　青銅器埋納遺跡調査表

島根県教育委員会は荒神谷遺跡報告書作成事業の一環として、神庭荒神谷遺跡関連資料並びに青銅器出土遺跡の調査を実施した。その趣旨は、神庭荒神谷遺跡出土青銅器と同型式あるいは関連する資料を調査し、併せてその出土地点を踏査することで、青銅器の出土地点や出土状況を再確認し、比較検討して神庭荒神谷遺跡及び出土青銅器の特徴を正確に把握しようというものである。実際に調査対象としたのは神庭荒神谷青銅器と同型式の銅剣、銅矛、銅鐸ないし複数器種、複数埋納の青銅器で、各地の研究者の協力を得て調査した遺跡は1991年から1995年までの５年間で、西日本の16府県100遺跡余りにのぼった。この調査表は、調査した遺跡の立地や青銅器の出土状況などを、その時の調査カードを基に写真を交えて報告するものである。

凡　例

1、この調査表に掲載した遺跡は、神庭荒神谷遺跡出土青銅器に関連する青銅器を出土した遺跡のうち、報告書作成事業実施中に調査できた遺跡のみを掲載した。

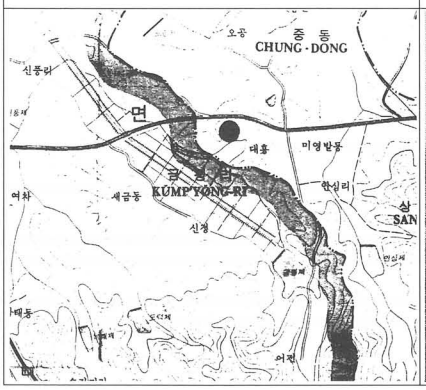
2、表中の「番号」は付編第３章の青銅器地名表の遺跡番号と同一である。（鐸）は銅鐸地名表を、（武）は武器形青銅器地名表を表す。「所在地」はなるべく現在の住所表示に合わせた表記を行った。

3、「所有者」並びに「保管場所」については判明しているもののみ記入した。「文献」はなるべく初出のもの、出土状況の詳しいもの一篇のみとし、その他は付編第４章の文献一覧にまとめて掲載した。

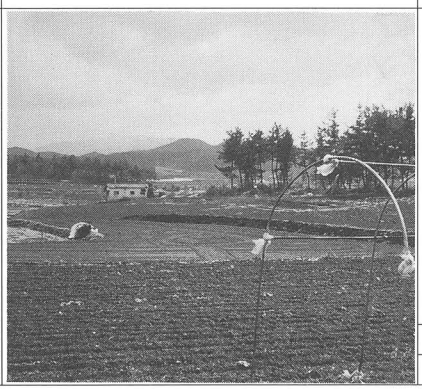
4、上林里遺跡以外の「遺跡の位置図」は国土地理院発行の５万分の１の地図に遺跡の位置を落したものである。「遺跡写真」の遠景写真には青銅器の出土地点を矢印で示した。埋納坑の確認された遺跡については「備考」に埋納坑の実測図を掲載した。また、現地に同行していただいた方を「備考」に記した（敬称略）。

番　号		遺跡名	上林里（サンニムニ）遺跡	所在地	全羅北道完州郡 伊西面上林里	発見年	1975年
青銅器の種　類	銅剣　中国式銅剣Ａ型（桃氏剣）26 銅鐸 銅矛			立　地	全北道中央を東流する萬頃江の一支流が形成する谷に面した小谷の南向斜面に立地。尾根自体は標高50ｍ弱の微高地。	所有者	国立全州博物館
				発見の経緯	地元の人が畑の苗木を掘っていて発見。	保管場所	国立全州博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺跡	なし			出土状況	26本が鋒を東に向け、束ねていたかのように整然と東西にほぼ水平に出土。	文　献	全榮來「完卅上林里出土中国式銅剣に関して」『全北遺跡調査報告』６　全州博物館　1976年

遺跡の位置図（全州市地図）



遺　跡　写　真



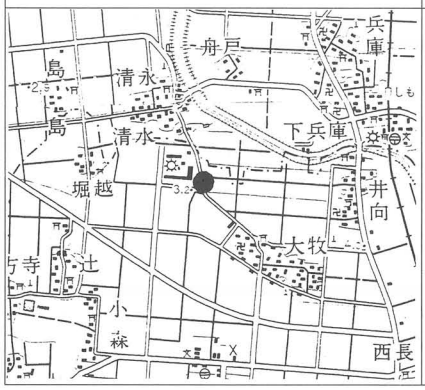
備　考

銅剣は鋳造後の研磨なし。柄部、刃部等に鋳造痕そのまま残る。
同行者　全榮來

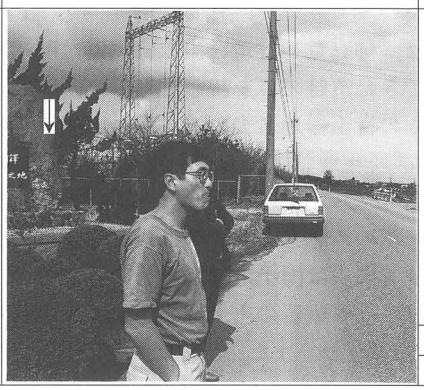
調査年月日	1994年３月24日
調　査　者	足立克己

番　号	（鐸）福井３	遺跡名	井向（いのかい）遺跡	所在地	福井県坂井郡春江町井向島田	発見年	1868年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　２個（或いは３個） ①外縁付鈕１式　二・三区流水文 ②菱環鈕２式　四区袈裟襷文 （③外縁付鈕２式　三区流水文） 銅矛			立　地	九頭竜川支流で福井平野を流れる兵庫川の旧自然堤防上。	所有者	①辰馬考古資料館 ②富田重助 ③明治大学考古学研究室
				発見の経緯	懇鍬作業中発見。	保管場所	①辰馬考古資料館 ②富田重助 ③明治大学考古学研究室
						指定の状況	遺跡 遺物　国宝（①のみ）
伴出遺物	なし			出土状況	下縁部を接してほぼ水平に埋められていた。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図（三国・福井）



遺跡写真



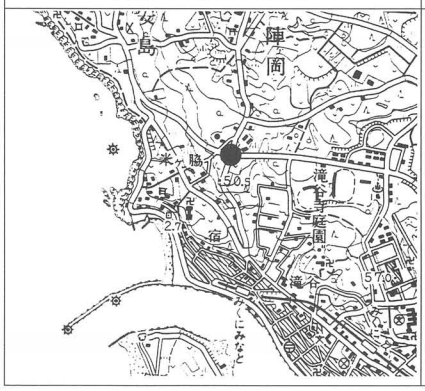
備考

同行者　冨山正明

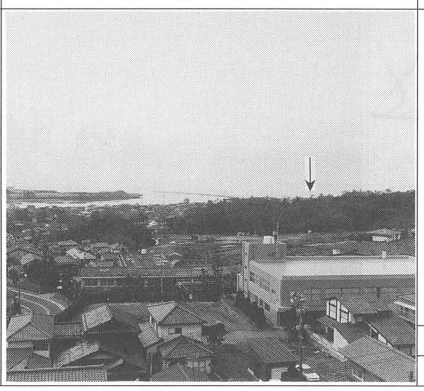
調査年月日	1994年２月28日
調査者	足立克己・勝瀬利栄

番　号	（鐸）福井５	遺跡名	米ヶ脇（こめがわき）遺跡	所在地	福井県坂井郡三国町米ヶ脇	発見年	1926年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕２式四区袈裟襷文　１ 銅矛			立　地	九頭竜川河口に広がる標高約30ｍの安山岩台地上。	所有者	三国町
				発見の経緯	京福電鉄三国芦原線敷設工事中、旧東尋坊口駅付近で発見と伝わる。	保管場所	みくに龍翔館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定有形文化財（考古資料）
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文　献	印牧邦雄「坂井郡雄島村米ヶ脇出土の新銅鐸について」『福井県文化財調査報告』１ 1951年

遺跡の位置図（三国）



遺跡写真



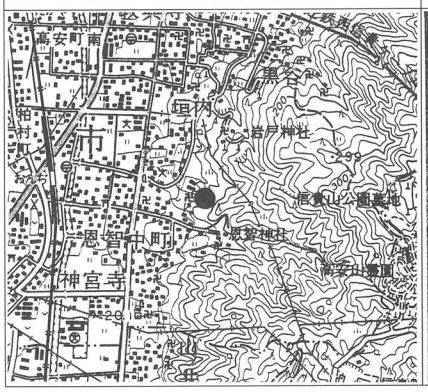
備考

日本海側で最北端の出土地。
同行者　冨山正明

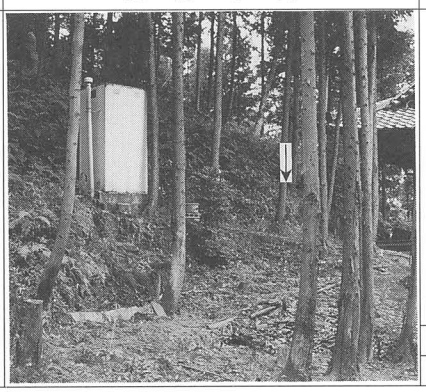
調査年月日	1994年２月28日
調査者	足立克己・勝瀬利栄

番　号	（鐸）大阪10	遺跡名	恩智垣内山遺跡（おんぢかいとやま）	所在地	大阪府八尾市恩智垣内山	発見年	1921年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁鈕２式二区流水文　1 銅矛			立　地	生駒山地南部の西に開いた小谷の斜面部。出土地点は標高70～80ｍと思われるが特定できない。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	山崩れによる。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況		文　献	梅原末治「河内恩智新発見銅鐸調査報告」『民族と歴史』6-5 1921年

遺跡の位置図（大阪東南部）



遺跡写真



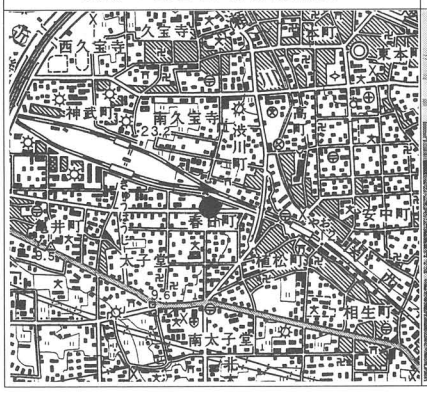
備考

同行者　成海佳子

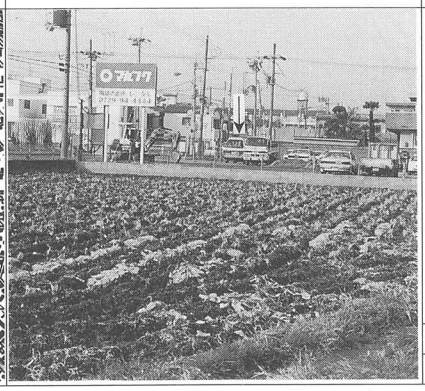
調査年月日	1992年１月27日
調　査　者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	（鐸）大阪33	遺跡名	跡部遺跡（あとべ）	所在地	大阪府八尾市春日町１丁目45-1	発見年	1988年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式流水文　1 銅矛			立　地	沖積平野微高地	所有者	八尾市教育委員会
				発見の経緯	下水道工事に伴う発掘調査	保管場所	八尾市教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	土器片、銅鏃 （埋納時期は中期末以降、後期末以前）			出土状況	埋納坑に鮨を立てて横位で出土。	文　献	八尾市教育委員会『跡部遺跡』1989年

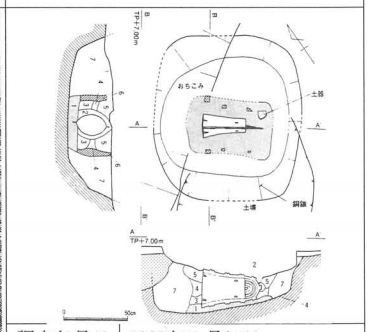
遺跡の位置図（大阪東南部）



遺跡写真



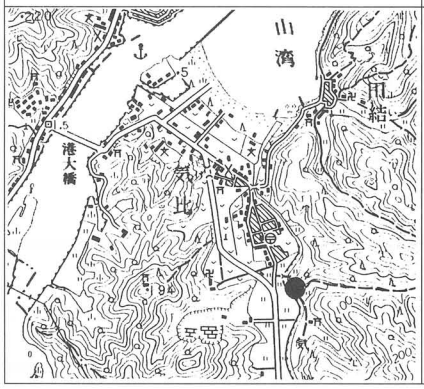
備考



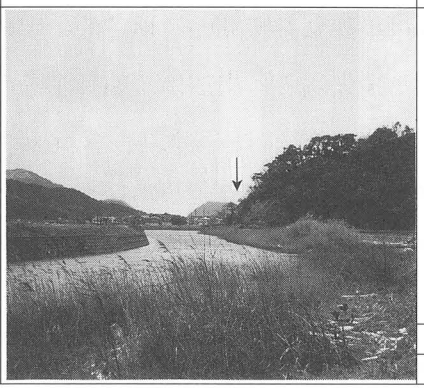
調査年月日	1992年１月27日
調　査　者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　　号	（鐸）兵庫１	遺跡名	気比（けひ）遺跡	所 在 地	兵庫県豊岡市気比溝口	発見年	1912年
青銅器の種　類	銅剣 銅鐸 銅鐸１号　外縁付鈕２式二区流水文 銅鐸２号　外縁付鈕２式二区流水文 銅鐸３号　外縁付鈕１式縦横四区流水文 銅鐸４号　外縁付鈕２式三区流水文 銅矛			立　　地	気比川河口部に突出する尾根の先端山裾。	所有者	文化庁
				発見の経緯	石材採取時に発見。	保　管 場　所	東京国立博物館
						指定の 状　況	遺跡　市指定 遺物　重要文化財
伴出遺物	なし			出土状況	高さ４ｍ程度の巨岩の裏側の閉塞石をもつ岩穴から出土。銅鐸４個を鰭を立てて横たえ、その下に径１～２寸の河原石と貝殻（カキ及びニナ類）を敷く。覆土４～５尺（120～150㎝）。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図（城崎）



遺　跡　写　真



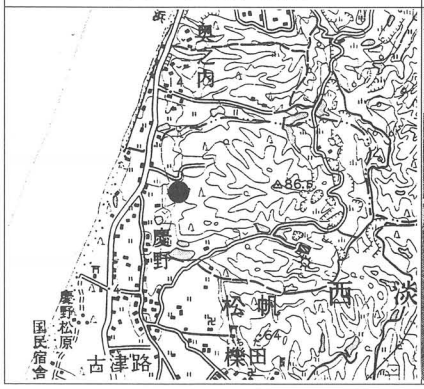
備　　考

○３号の鋳型が茨木市東奈良遺跡から出土
○４号は陶器鐸と同笵
○出土状況については埋納方法が古代のものではないと疑問視するもの多い
○岩穴は南北幅２尺４～５寸(72～75㎝)奥行５～６尺（150～180㎝）
○閉塞石は幅５尺、高さ５尺、厚さ１尺（150×150×30㎝）
同行者　瀬戸谷晧

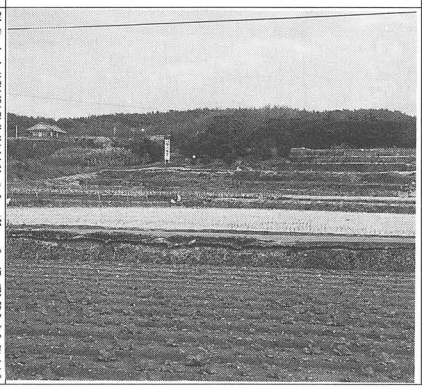
調査年月日	1993年２月１日
調　査　者	足立克己・広江耕史

番　　号	（鐸）兵庫13	遺跡名	慶野中ノ御堂（けいのなかのみどう）遺跡	所 在 地	兵庫県三原郡西淡町松帆	発見年	1686年
青銅器の種　類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕１式四区袈裟襷文　1 銅矛			立　　地	西に播磨灘を臨む低丘陵先端部緩斜面。	所有者	日光寺
				発見の経緯	地崩れにより出土。	保　管 場　所	日光寺
						指定の 状　況	遺跡 遺物
伴出遺物	銅舌			出土状況	３個または８個出土したという。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図（洲本）



遺　跡　写　真



備　　考

慶野組鐸（外縁付鈕１式４区袈裟襷文）、淡路島内の個人蔵鐸もここからの出土と推定。
８個同時埋納かどうかは諸説あり。また、舌も１個と数えた可能性もある。
同行者　浦上雅史

調査年月日	1992年１月25日
調　査　者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	(鐸) 兵庫17	遺跡名	倭文(しとうり)遺跡	所在地	兵庫県三原郡緑町倭文庄田字笹尾	発見年	1959年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕2式二区流水文　1 銅矛			立地	山腹(標高かなり高い位置)。南西方に広がる三原平野からは完全に目隠し状態の位置にあたる。	所有者	文化庁
				発見の経緯	牧草地造成中に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況		文献	田中巽「近時の銅鐸の出土に就いて」『西田先生頌寿記念古代史論集』1960年

遺跡の位置図(洲本・由良)

遺跡写真

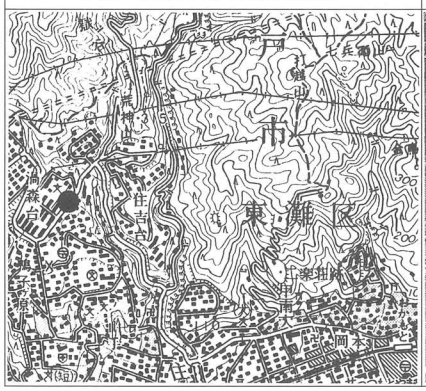
備考

出土地は原地形とあまり変っていないか。
恩智垣内山、神戸木ノ根と同笵。
同行者　浦上雅史

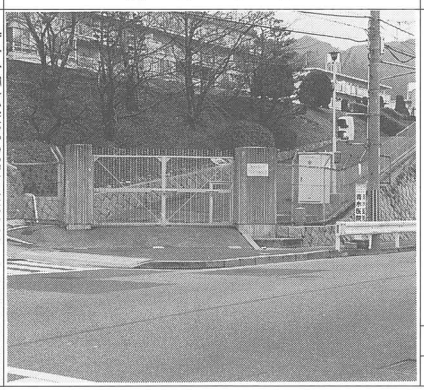
調査年月日	1992年1月25日
調査者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	(鐸) 兵庫29	遺跡名	渦ヶ森(うずがもり)遺跡	所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉町渦ヶ森	発見年	1934年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文　1 銅矛			立地	住吉川の支流、西谷川の開いた谷の南東斜面に立地。現在は団地の一角で、原地形は失なわれている。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	施設建設	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況		文献	梅原末治「銅鐸に関する若干の新知見」『歴史と地理』33-4 1941年

遺跡の位置図(大阪西北部)



遺跡写真



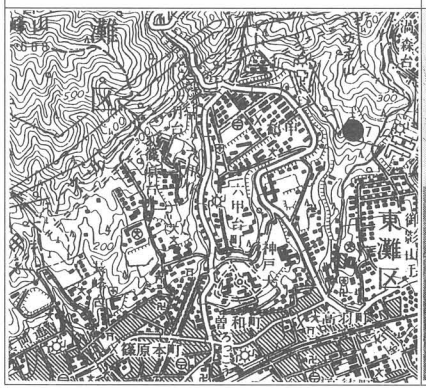
備考

同行者　喜谷美宣・森田稔

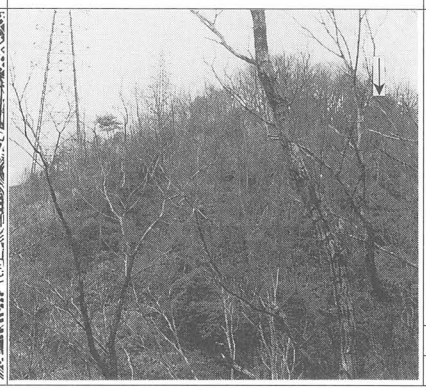
調査年月日	1992年1月24日
調査者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	（鐸）兵庫33	遺跡名	桜ヶ丘（さくらがおか）遺跡	所在地	兵庫県神戸市桜ヶ丘町	発見年	1964年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸：外縁付鈕１式　二区流水文　2 〃　〃　四区袈裟襷文１ 〃　２式　二区流水文　1 扁平鈕式　四区袈裟襷文５ 〃　六区　〃　5 銅戈 大阪湾型銅戈７			立地	山頂よりやや下った斜面。	所有者	神戸市立博物館
				発見の経緯	土取作業中に発見。	保管場所	神戸市立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　国宝
伴出遺物	なし			出土状況	発見者の証言から、鰭を上下にして置かれており、６号鐸のみが鰭を水平にして置かれていたと推定される。銅戈はその６号鐸の東側にやや離れて置かれた３個の下から出土。	文献	『桜ヶ丘銅鐸・銅戈』桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査委員会　1969年

遺跡の位置図（神戸）



遺跡写真



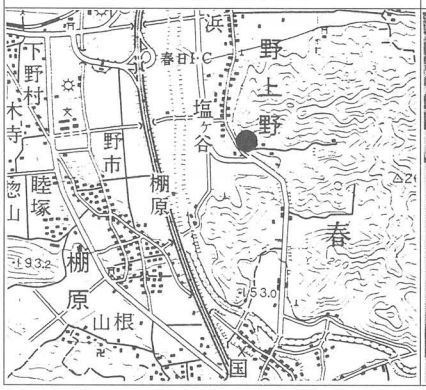
備考

同行者　喜谷美宣・森田稔

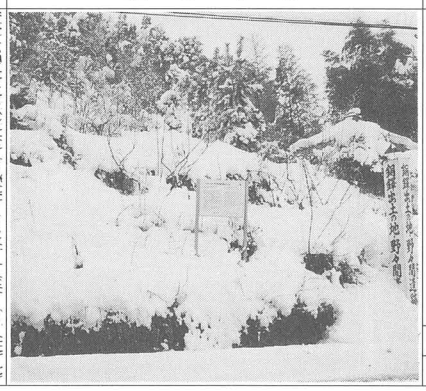
調査年月日	1992年１月24日
調査者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	（鐸）兵庫37	遺跡名	野々間（ののま）遺跡	所在地	兵庫県氷上郡春日町野上野野々間	発見年	1981（昭和56）
青銅器の種類	銅剣 銅鐸：１号銅鐸 外縁付鈕２式四区袈裟襷文 ２号銅鐸 扁平鈕式四区袈裟襷文 銅矛			立地	春日盆地に向かって伸びる妙見山の尾根の先端部。平担部からの比高は10ｍ前後。	所有者	春日町教育委員会
				発見の経緯	山道沿いの崖面で自然薯掘りをしている際に発見。	保管場所	春日町歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡　県指定史跡 遺物　県指定文化財（考古資料）
伴出遺物	なし			出土状況	南北３ｍ以上、東西約3.5ｍの平面不整円形を呈するテラス状の２基の埋納壙に底面から高い位置に、１号鐸は直立、２号鐸は鰭を水平にして鈕を高くして置く。	文献	兵庫県氷上郡春日町『野々間遺跡』1990年

遺跡の位置図（篠山）



遺跡写真



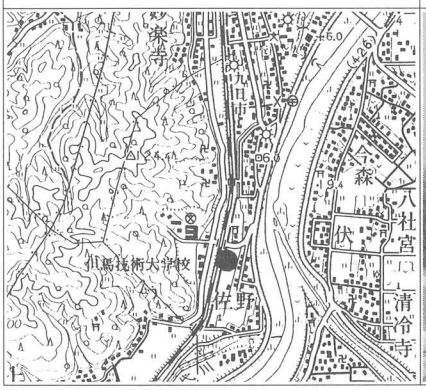
備考

○埋納順序は２号鐸の次に１号鐸が埋納
○湯まわりが悪く、表面がなめった状態

調査年月日	1993年２月２日
調査者	足立克己・広江耕史

番　号	（鐸）兵庫38	遺跡名	女代神社遺跡（めしろじんじゃ）	所在地	兵庫県豊岡市九日市遠ノ下	発見年	1991年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕２式（破片）１ 銅矛			立　地	円山川が形成した沖積地に流れ出る小支流が形成する扇状地の先端部	所有者	豊岡市教育委員会
				発見の経緯	豊岡市下水道課発注の「八条１号雨水幹線整備工事」現場で工事のあげ土の中から採集	保管場所	豊岡市郷土資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	土器片			出土状況		文　献	瀬戸谷晧「３年の調査のなかから」『豊岡発掘だより』第68号 1991年

遺跡の位置図（城崎）



遺跡写真

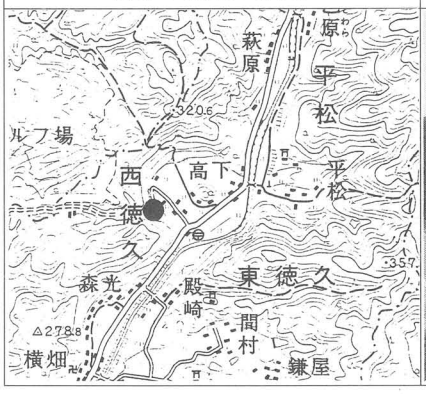
備考

○破砕されたと考えられている。
同行者　瀬戸谷晧

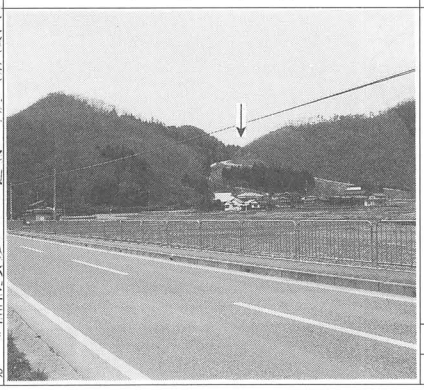
調査年月日	1993年２月１日
調　査　者	足立克己・広江耕史

番　号	（武）兵庫１	遺跡名	平松遺跡（ひらまつ）	所在地	兵庫県佐用郡南光町平松	発見年	1887年頃
青銅器の種類	銅剣　中細形ｂ類１ 銅鐸 銅矛			立　地	千種川の西岸、通称ゴロウ山（標高200ｍ）の急峻な山麓	所有者	天一神社
				発見の経緯	石取り場の採石中？	保管場所	毎年の年番宅
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定文化財（考古資料）
伴出遺物	不明			出土状況	「種み石の下」より発見（島田1926年による）	文　献	島田貞彦「播磨国佐用郡平松発見の銅剣」人類学雑誌41-1　1926年

遺跡の位置図（佐用）



遺跡写真



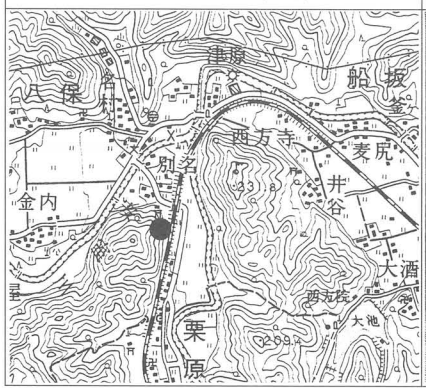
備考

同行者　種定淳介

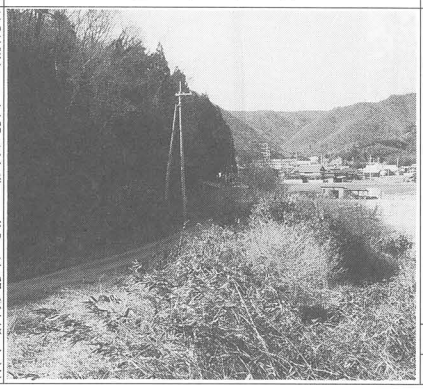
調査年月日	1994年３月１日
調　査　者	平野芳英・宍道年弘

番　号	(武) 兵庫２	遺跡名	別名遺跡	所在地	兵庫県赤穂郡上郡町別名	発見年	1958年
青銅器の種類	銅剣　東部瀬戸内系平形銅剣３ 銅鐸 銅矛			立　地	安室川の右岸、標高204ｍの丘陵の東麓斜面。	所有者	有年考古館
				発見の経緯	道路工事のための採土中。	保管場所	有年考古館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	移動した土の中からの発見で不明。剣に付着した腐植土から地表近くにあったものと思われる。	文　献	高橋久志・松岡秀夫『兵庫県上郡町別名出土の銅剣』有年考古館研究報告第三輯 1983年

遺跡の位置図（上郡）



遺　跡　写　真



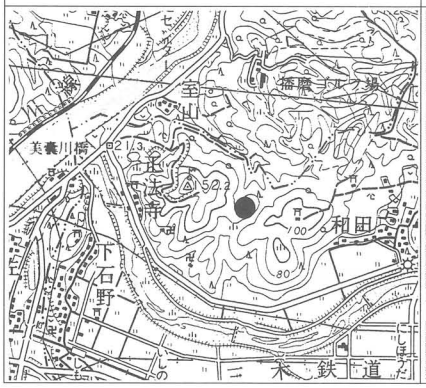
備　考

同行者

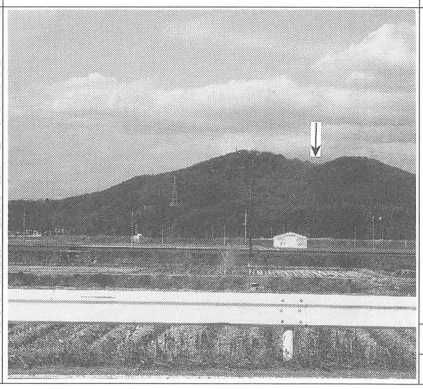
調査年月日	1994年３月１日
調　査　者	平野芳英・宍道年弘

番　号	(武) 兵庫４	遺跡名	正法寺山出土地	所在地	兵庫県三木市別所町	発見年	1894年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣 （吉田広の中細形Ｄ類） 銅鐸 銅矛			立　地	加古川と支流の美嚢川の合流地点に突き出した丘陵上の鞍部	所有者	藤本熊治
				発見の経緯	表採	保管場所	藤本熊治
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況	所有者の藤本氏によると土に突き刺さるように埋もれていたという。	文　献	三木市史「考古学からみた三木地方の古代」1970年

遺跡の位置図（　）



遺　跡　写　真



備　考

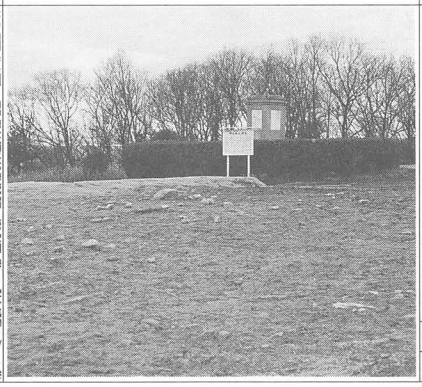
同行者　種定淳介

調査年月日	1994年２月28日
調　査　者	平野芳英・宍道年弘

番　号	(武) 兵庫7	遺跡名	甲山遺跡	所在地	兵庫県西宮市甲山	発見年	1970年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛 異形銅戈　1			立　地	六甲山塊東端にある独立峰の山頂（中央よりやや南寄り）南方・東方の眺望は時にすばらしい。	所有者	西宮市教育委員会
				発見の経緯	登山者発見	保管場所	西宮市教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況		文　献	武藤誠「銅剣の新資料――甲山から出土した銅剣について」『西宮文化』17号　1971年

遺跡の位置図（大阪西北部）

遺跡写真



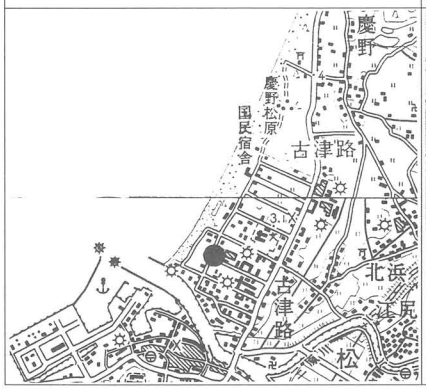
備考

同行者　合田茂伸

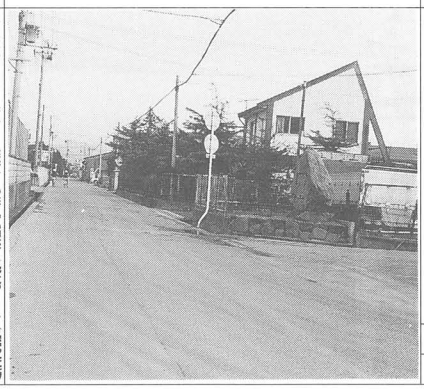
調査年月日	1992年1月26日
調査者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	(武) 兵庫8	遺跡名	古津路遺跡	所在地	兵庫県源郡西淡町松帆古津路	発見年	1966年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣b類　13 銅鐸 銅矛			立　地	砂丘上。本来は自然提防上の微高地か。	所有者	文化庁
				発見の経緯	土砂採取工事中発見。	保管場所	国立歴史民俗博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明。	文　献	武藤誠・三木文雄「三原郡西淡町古津路出土の銅剣」『桜ヶ丘銅鐸銅戈』1969年

遺跡の位置図（鳴門海峡）



遺跡写真



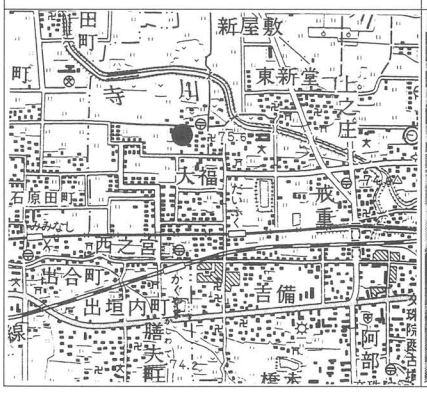
備考

同行者　浦上雅史

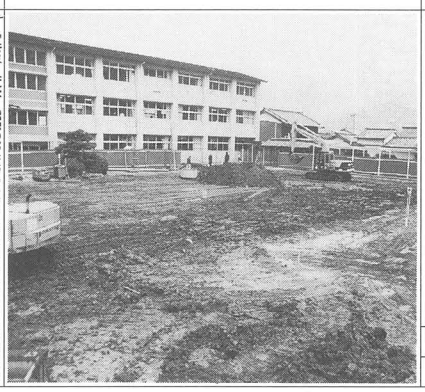
調査年月日	1992年1月25日
調査者	渡辺貞幸・柳浦俊一

番　号	（鐸）奈良17	遺跡名	大福遺跡（だいふく）	所在地	奈良県桜井市大字大福820	発見年	1985年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕Ｉ式袈裟襷文　1 銅矛			立　地	扇状地（２号方形周溝墓の溝の内側に存在）	所有者	桜井市教育委員会
				発見の経緯	小学校造成に伴う発掘調査中発見	保管場所	桜井市埋蔵文化財センター
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定有形文化財（考古資料）
伴出遺物	銅鐸に直接伴うものはないが、方形周溝墓の造営と溝内出土遺物から、銅鐸の時期は弥生時代終末～纏向１式期。			出土状況	埋納坑（長径58cm、短径25cm、深さ18cm）の中に鰭部を下にして置く	文　献	桜井市教育委員会 『大福遺跡―大福小学校地区―発掘調査概報』1987年

遺跡の位置図（桜井）

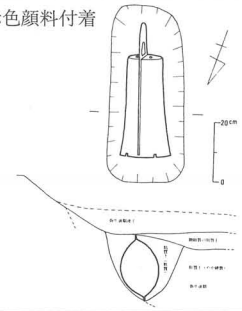


遺　跡　写　真



備　　考

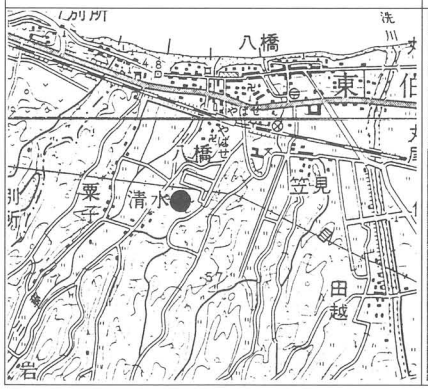
鐸身に赤色顔料付着



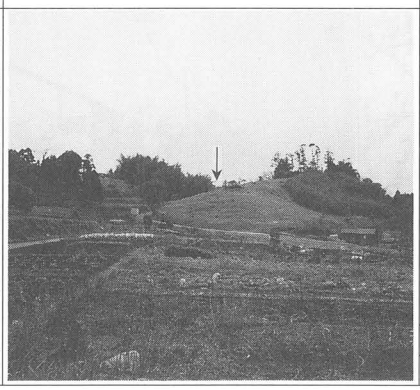
調査年月日	1994年２月23日
調　査　者	東森市良・西尾克己

番　号	（鐸）鳥取１	遺跡名	八橋銅鐸出土地（やばせ）	所在地	鳥取県東伯郡（とうはくぐん）八橋字龍王（りゅうおう）	発見年	1901年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	日本海が望める標高30ｍの低丘陵先端部	所有者	高津義家
				発見の経緯	不祥	保管場所	京都国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定保護文化財（考古資料）
伴出遺物				出土状況	不祥	文　献	『鳥取県史蹟勝地調査報告書』第二冊　鳥取県　1924年

遺跡の位置図（赤崎・大山）



遺　跡　写　真



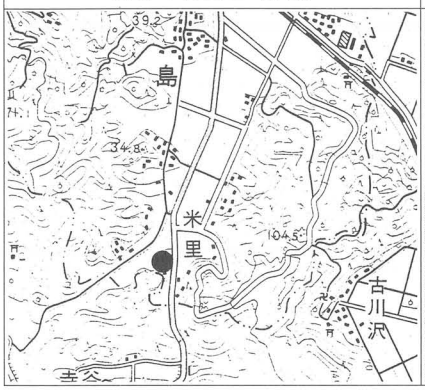
備　　考

同行者　野田久男・大賀靖浩

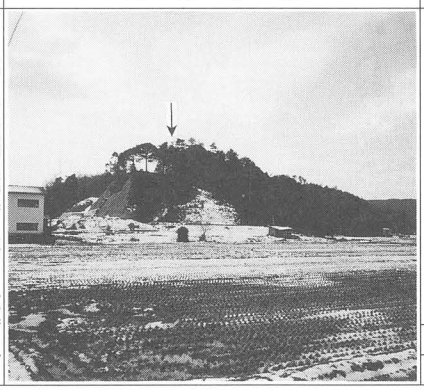
調査年月日	1993年３月３日
調　査　者	東森市良・西尾克己

番　号	（鐸）鳥取２	遺跡名	米里銅鐸出土地	所在地	鳥取県東伯郡北条町米里ゾウガラ	発見年	1897年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕式四区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	谷部の低丘陵の山裾	所有者	現存せず
				発見の経緯	開墾中発見	保管場所	
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	直良の報文には銅鐸の横１ｍから土器が出土しているという。弥生後期土器か古式土師器と考えられるが、銅鐸との関係は、はっきりしない。			出土状況		文　献	直良信夫「伯耆米里発見の銅鐸とその出土状態」『考古学雑誌』19-10　1929年

遺跡の位置図（倉吉）



遺跡写真



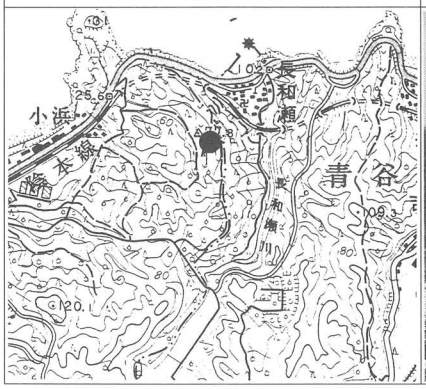
備考

同行者　野田久男

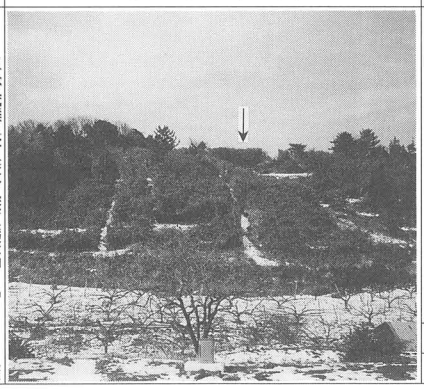
調査年月日	1993年３月３日
調査者	東森市良・西尾克己

番　号	（鐸）鳥取３	遺跡名	泊村小浜銅鐸出土地	所在地	鳥取県東伯郡泊村小浜	発見年	1933年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕１式二区流水文　1 銅矛			立　地	日本海を望む標高78ｍの尾根上に位置する。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	開墾中発見	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　国重要文化財（銅舌とも）
伴出遺物	銅舌　2			出土状況		文　献	倉光清六「伯耆新発見の銅鐸」『考古学』4-3　1933年

遺跡の位置図（青谷）



遺跡写真



備考

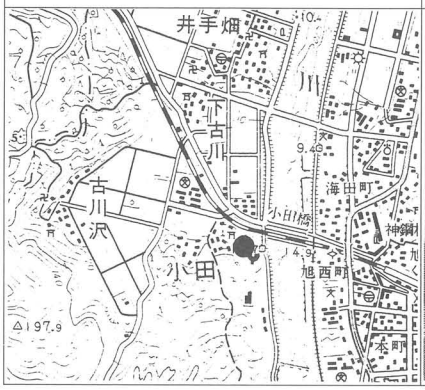
現在の正式な遺跡名称は『池ノ谷第２遺跡』。
合計５個の同笵銅鐸が判明している。

同行者　野田久男

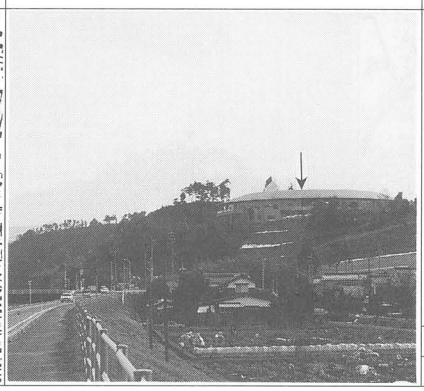
調査年月日	1993年３月３日
調査者	東森市良・西尾克己

番　号	（鐸）鳥取４	遺跡名	小田（こだ）銅鐸出土地	所在地	鳥取県倉吉（くらよし）市小田字樋ノ口（ひのくち）	発見年	1947～1948年頃
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕２式四区袈裟襷文　1 扁平鈕式六区袈裟襷文　1 銅矛			立地	平野に突出した標高40ｍの丘陵先端。	所有者	足羽弘研（外縁付鈕２式） 倉吉市（扁平鈕式）
				発見の経緯	軍人墓地の造成中発見。	保管場所	倉吉市立倉吉博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定保護文化財（考古資料）
伴出遺物	なし			出土状況		文献	谷田亀寿「弥生時代」『倉吉市誌』1956年

遺跡の位置図（倉吉）



遺跡写真



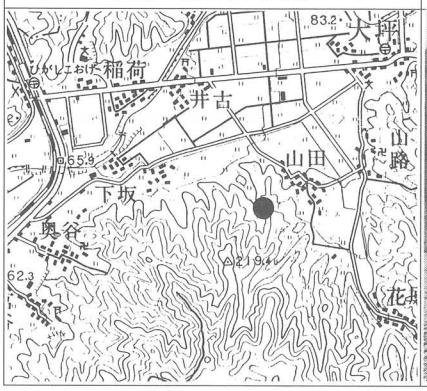
備考

名越勉氏同行

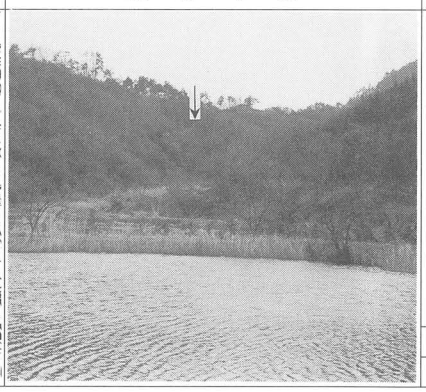
調査年月日	1993年３月３日
調査者	東森市良・西尾克己

番　号	（鐸）鳥取10	遺跡名	下坂（おりさか）銅鐸出土地	所在地	鳥取県八頭郡郡家町下坂字東梶平（ひがしかじひら）	発見年	1912年９月26日
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕２式四区袈裟襷文　1 銅矛			立地	ヒダ状の丘陵地の斜面	所有者	鳥取県立博物館
				発見の経緯	1912年９月26日、地元の人による草刈中に、山くずれの赤土の中に1/2ほど銅鐸が現われているのを発見する。	保管場所	鳥取県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	山くずれの赤土中からの採集。	文献	『郡家町誌』1969年

遺跡の位置図（若桜）



遺跡写真



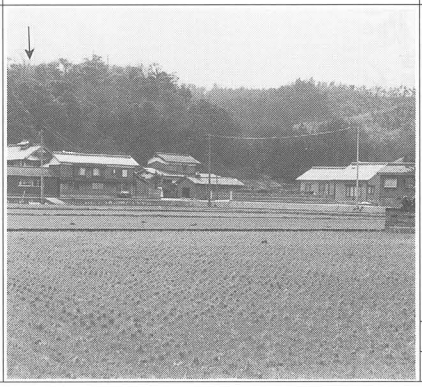
備考

調査年月日	1995年３月10日
調査者	内田律雄・久家儀夫

番　号	（鐸）鳥取11	遺跡名	高住（たかずみ）銅鐸出土地	所在地	鳥取県鳥取市高住地内	発見年	1936～1938年頃
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式一区流水紋　1 銅矛			立　地	丘陵斜面	所有者	森本節夫
				発見の経緯	地元の人がウサギのワナを仕掛けるために斜面を掘ったところ銅鐸が顔を出した。	保管場所	鳥取市立郷土民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	丘陵斜面から掘り出す。	文　献	鳥取県教育委員会『鳥取県文化財調査報告書』第一集　1960年

遺跡の位置図（鳥取南部）

遺跡写真



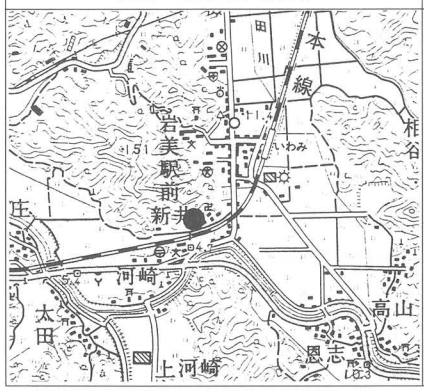
備考

伝出土地は発見者がすでに亡くなっており、「北野神社南方の谷」という他には不明となっている。候補地は三箇所あり（うち、一箇所は字宮ノ谷）。

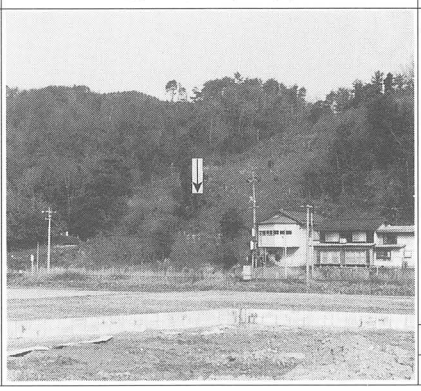
調査年月日	1995年3月11日
調　査　者	内田律雄・久家儀夫

番　号	（鐸）鳥取12	遺跡名	新井（にい）銅鐸出土地	所在地	鳥取県岩美郡岩美町新井上屋敷	発見年	1950年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕2式二区流水紋　1 銅矛			立　地	丘陵南側斜面	所有者	文化庁
				発見の経緯	梨園造成中に発見。	保管場所	京都国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	梨園造成中に掘り出す。	文　献	三木文雄『流水文銅鐸の研究』1974年

遺跡の位置図（浜坂）



遺跡写真



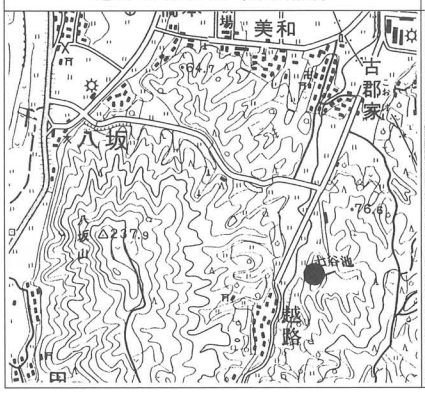
備考

桜ヶ丘3号鐸と同笵

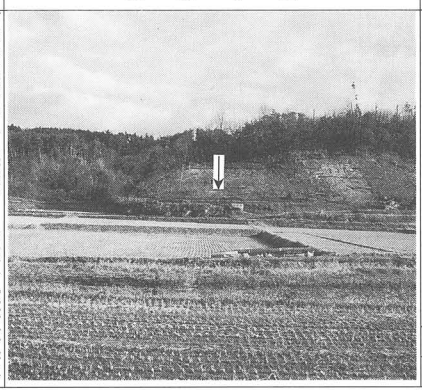
調査年月日	1993年3月11日
調　査　者	内田律雄・久家儀夫

番　号	（鐸）鳥取13	遺跡名	越路遺跡	所在地	鳥取県鳥取市越路字丸山	発見年	1959～1960年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕２式二区流水文１ 銅矛			立　地	鳥取平野の南端に形成された越路谷というやや小さめの谷に面した低い丘陵の斜面中程に立地する。	所有者	鳥取県立博物館
				発見の経緯	畑の開墾中に出土。	保管場所	鳥取県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定保護文化財（考古資料）
伴出遺物	なし。			出土状況	地表下２～３尺のところで一抱えもあるような板石の下から出土。	文　献	三木文雄『流水文銅鐸の研究』1974年

遺跡の位置図（鳥取南部）



遺　跡　写　真



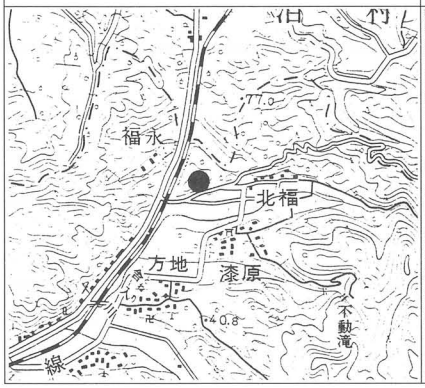
備　考

同行者　平川　誠

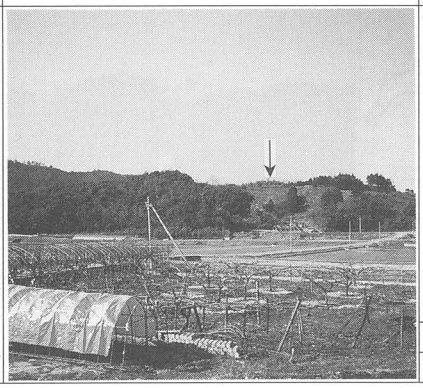
調査年月日	1991年12月９日
調　査　者	松本岩雄・足立克己

番　号	（鐸）鳥取15	遺跡名	北福小銅鐸出土地	所在地	鳥取県東伯郡東郷町大字北福字北山	発見年	1930～1931年頃
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　小銅鐸　１個 銅矛			立　地	丘陵南側斜面。	所有者	小林義孝
				発見の経緯	開墾中発見。	保管場所	東郷町教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明。	文　献	名越勉・甲斐忠彦「鳥取県東郷町出土の小銅鐸」『考古学雑誌』59-2　1973年

遺跡の位置図（倉吉）



遺　跡　写　真



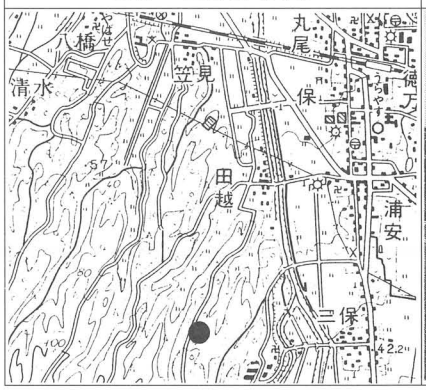
備　考

同行者　名越　勉

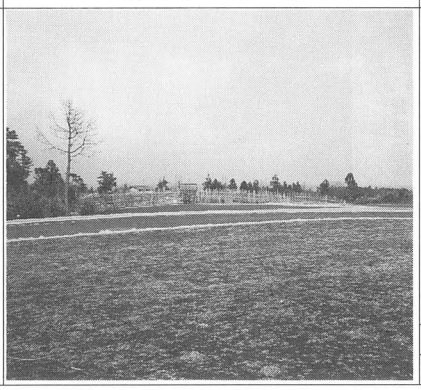
調査年月日	1993年３月３日
調　査　者	東森市良・西尾克己

番　号	(武) 鳥取1	遺跡名	イズチ頭銅剣出土地	所在地	鳥取県東伯郡東伯町大字田越井図地頭	発見年	1910年頃
青銅器の種類	銅剣　中細形c類　2 (もと4) 銅鐸 銅矛			立　地	日本海が望める標高80mの低丘陵上。	所有者	東伯町教育委員会
				発見の経緯	開墾中に発見。	保管場所	東伯町教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物　町指定文化財(考古資料)
伴出遺物				出土状況	倉光清六氏報告によると箱式石棺の下30cm出土という。	文　献	倉光清六「伯耆八橋町銅鐸山土遺跡」『考古学雑誌』23-4　1933年

遺跡の位置図(大山)



遺跡写真



備考

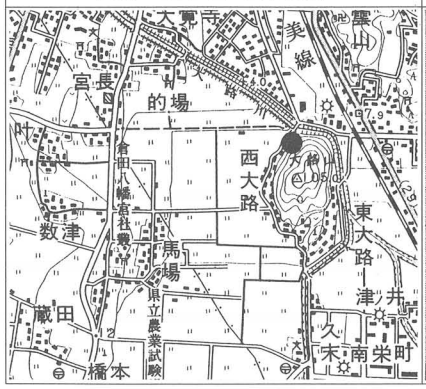
鋒部のみ現存

同行者　野田久男・大賀靖浩

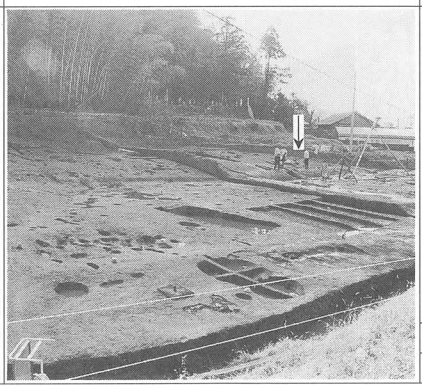
調査年月日	1993年3月1日
調査者	東森市良・西尾克己

番　号	(武) 鳥取2	遺跡名	西大路土居遺跡	所在地	鳥取県鳥取市西大路字土居	発見年	1991年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣b類1 (剣身下半のみ) 銅鐸 銅矛			立　地	鳥取平野の南東部、標高105mの独立丘陵の北西斜面裾の傾斜地に位置する。	所有者	鳥取市教育委員会
				発見の経緯	国道29号線バイパス工事に伴う事前調査で、弥生時代後期初頭～中世の集落跡を発掘調査中に発見。	保管場所	鳥取市教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	弥生時代後期後半を上限とした土器小片を含む暗褐色粘質土中から翼を水平にした状態で出土。	文　献	財団法人鳥取市教育福祉振興会『西大路土居遺跡』1993年

遺跡の位置図(鳥取南部)



遺跡写真

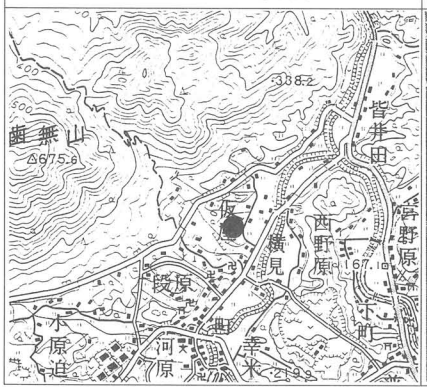


備考

調査年月日	1991年12月8日
調査者	松本岩雄・足立克己

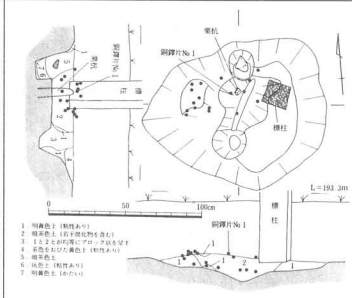
番　号	（鐸）島根１	遺跡名	中野仮屋遺跡（なかのかりや）	所在地	島根県邑智郡石見町中野仮屋4133	発見年	1914年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文１ 突線鈕１式一区流水文１ 銅矛			立　地	江の川支流濁川上流の於保地盆地の北東端に位置し、高い山の下に発達した南向きの高台の一部。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	畑の開墾中に地表下60cm余りのところに２個横たわって出土したという。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	1989年出土地点の発掘調査が実施され、埋納坑と銅鐸の破片が確認されたが、新知見は得られていない。	文　献	『島根県史』1924年

遺跡の位置図（川本）



遺跡写真

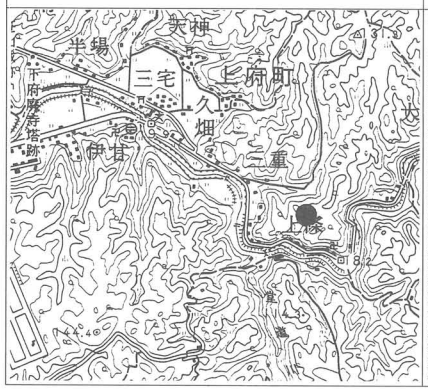
備考



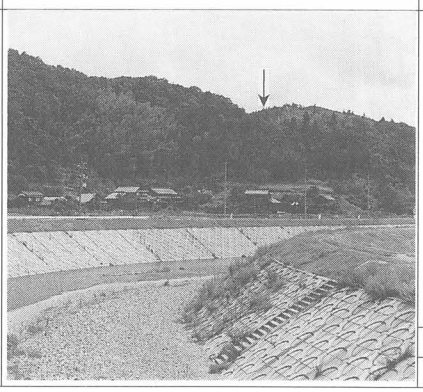
調査年月日	1993年12月13日
調　査　者	足立克己

番　号	（鐸）島根２	遺跡名	城山遺跡（じょうやま）	所在地	島根県浜田市上府町城山一ノ界	発見年	1924・25年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文２ （残欠１） 銅矛			立　地	下府川に面した標高80ｍ前後の丘陵上で、急斜面を上がって緩かになった九合目あたり。下府の沖積地からは裏側にあたる。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	粘土採取中２回にわたって出土。（直良信夫　1932年による）	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	２個の出土地点は20～30cm離れていたといい、どちらも鈕を上にして直立した状態で出土したという。	文　献	高橋直一「石見新発見の銅鐸に就いて」『考古学雑誌』18-7 1928年

遺跡の位置図（浜田）



遺跡写真



備考

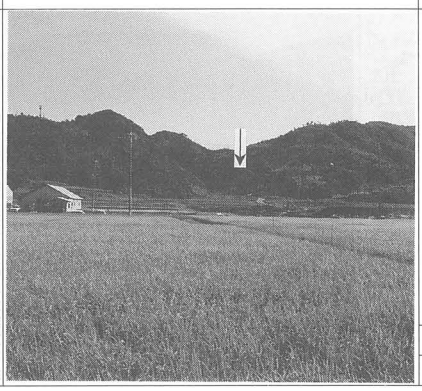
１号銅鐸（残欠）は出土当時は完形に近かったが、錆びて朽ちてしまったという。

調査年月日	1994年10月11日
調　査　者	足立克己

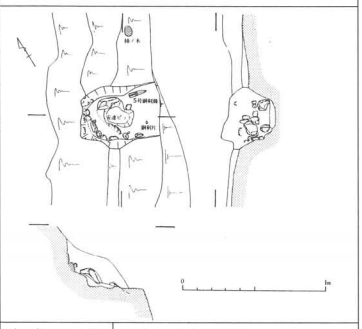
番　号	（鐸） 島根３	遺跡名	志谷奥遺跡	所在地	島根県八東郡鹿島町大字佐陀本郷字志谷奥2338	発見年	1973年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣ｃ類６ 銅鐸　外縁付鈕２式四区袈裟襷文　１ 扁平鈕式四区袈裟襷文　１ 銅矛			立　地	朝日山から古浦砂丘の後背地に向かって派生した支丘が形成する狭隘な谷の東向き斜面中程に立地。	所有者	文化庁
				発見の経緯	柿の木に施肥しようとして穴を掘ったところ出土。	保管場所	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	1975年の発掘調査で埋納坑を確認。銅鐸２個を鈕を下にして置き、その上に銅剣６本を鋒を下に向けて重ねる。	文　献	島根県鹿島町教育委員会『志谷奥遺跡』1976年

遺跡の位置図（恵曇）

遺　跡　写　真



備　　考

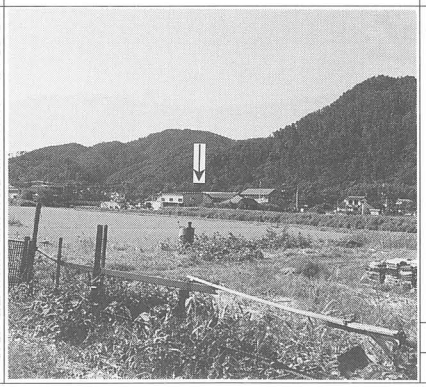


調査年月日	1994年12月12日
調　査　者	足立克己

番　号	（武） 島根１	遺跡名	真名井遺跡	所在地	島根県簸川郡大社町杵築東真名井命主社境内	発見年	1665年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛 銅戈　中細形ｂ類１			立　地	島根半島北山山系の南麓に位置し、亀山の急斜面の裾に立地する。	所有者	出雲大社
				発見の経緯	出雲大社寛文造営の際、命主社付近の石の切り出し作業中に発見。	保管場所	出雲大社
						指定の状況	遺跡 遺物　国指定重要文化財
伴出遺物	硬玉製勾玉１			出土状況	詳細不明。	文　献	近藤正「島根県下の青銅器について」『島根県文化財調査報告』第二集　1966年

遺跡の位置図（大社）

遺　跡　写　真



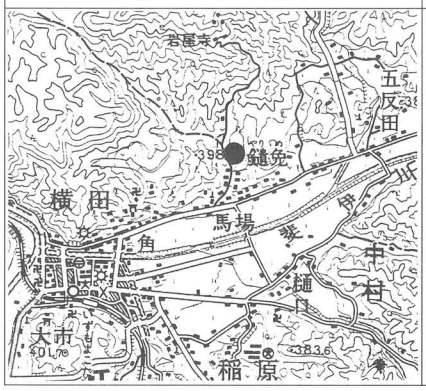
備　　考

佐草自清が記した「命主社神器出現之記」や「御造営日記」によれば、
寛文５年８月８日三つに折れた剣
同年９月13日　鉾と青キ玉
寛文６年４月６日　ほこ
同年４月７日　ほこ（長さ二尺）
の計４本の武器形が出土し、銅戈は９月13日のものと考えられる。

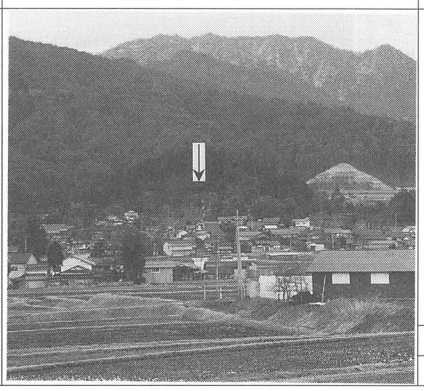
調査年月日	1993年９月22日
調　査　者	足立克己

番　号	(武)島根２	遺跡名	伝横田八幡宮銅剣出土地	所在地	島根県仁多郡横田町大字中村	発見年	伝1280年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣ｃ類１ 銅鐸 銅矛			立地	横田盆地に面した舌状の丘陵にあり、両側は谷になっている。盆地全体が一望できる眺望の極めて良好なところ。	所有者	横田八幡宮
				発見の経緯	横田八幡宮勧請のため、もともとあった横田神社の社地を拡幅した際出土したと伝える。	保管場所	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定有形文化財（考古資料）
伴出遺物	不明。			出土状況	不明。	文献	近藤正「島根県下の青銅器について」『山陰古代文化の研究』1978年

遺跡の位置図（横田）



遺跡写真



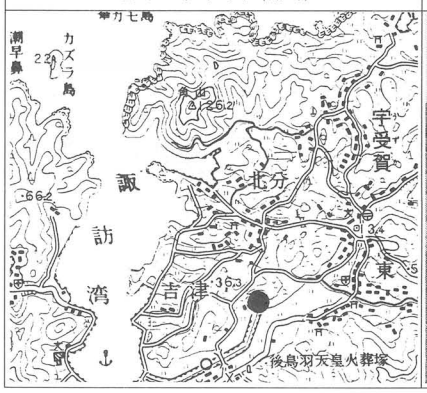
備考

同行者　木山久利

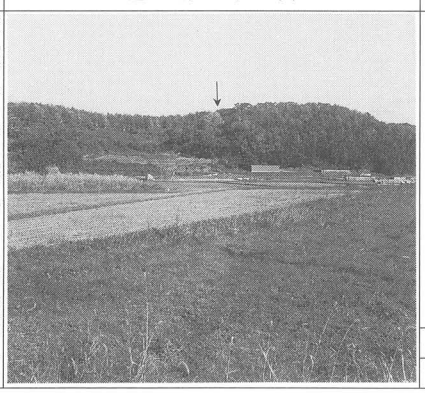
調査年月日	1992年１月18日
調査者	勝部昭・岩永省三・足立克己

番　号	(武)島根４	遺跡名	竹田遺跡	所在地	島根県隠岐郡海土町海土3817	発見年	1968年
青銅器の種類	銅剣　中細形銅剣ｂ類１（剣身下半） 銅鐸 銅矛			立地	諏訪川が形成した沖積地の北辺の低丘陵南斜面。	所有者	隠岐郡 海土町教育委員会
				発見の経緯	桑園造成中に中学生が発見。	保管場所	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
						指定の状況	遺跡　海土町指定文化財（史跡） 遺物　〃　（考古資料）
伴出遺物	九重式土器（甕・高坏・器台）、石器、鉄槍			出土状況	溝状遺構内	文献	勝部昭「出雲・隠岐発見の青銅器」『古文化談叢』８　1981年

遺跡の位置図（浦郷）



遺跡写真



備考

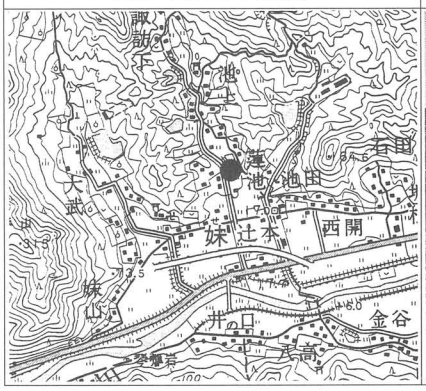
1970年３月の日本考古学協会青銅器部会の発掘調査により溝状遺構内から出土と判明。

同行者　高橋　弘

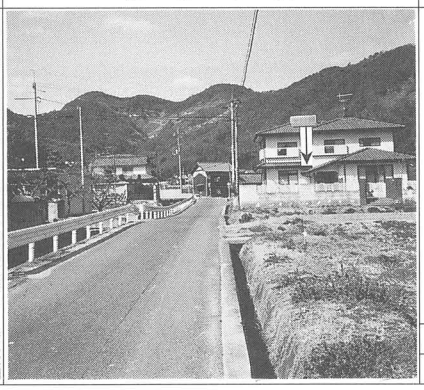
調査年月日	1992年11月17日
調査者	勝部昭・三宅博士

番　号	(鐸) 岡山1	遺跡名	備中呉妹(くれせ)遺跡	所在地	岡山県吉備郡真備町大字妹池の上字梨ノ木1377番地	発見年	1915年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕2式六区流水文 銅矛			立　地	稲木川支流小田川に流れ込む背谷川の西側に展開する平野(微高地)。蓮池尻遺跡に含まれる。遺跡附近には条里・旧山陽道がある。東には黒宮大塚も存在する。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	蓮池樋門部掘削途中に表土から約2尺ばかり掘り下げた位置に埋存していた。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況	鈕を南東に向け、横向きに出土。	文　献	藤原音松「備中呉妹銅鐸発掘地踏査報告」考古学雑誌8-2　1917年

遺跡の位置図(玉島)



遺跡写真



備考

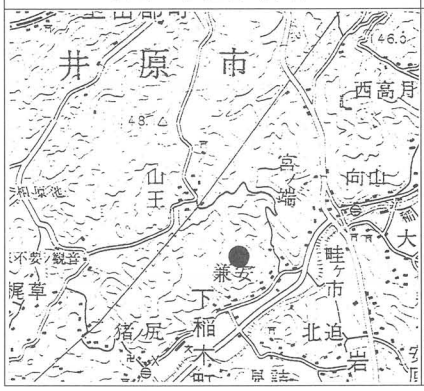
標柱あり
ただし現在の標柱は農作業の支障になる為、別の場所に移動した。

同行者　亀山行雄・岡田　博

調査年月日	1993年3月9日
調　査　者	卜部吉博・今岡一三

番　号	(鐸) 岡山2	遺跡名	兼安山(かねやすやま)フカタ池の上寺屋敷遺跡	所在地	岡山県井原市下稲木兼安字明見	発見年	伝1797年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	稲木川流域に広がる狭長な平野の北側に張り出した南北にのびる丘陵上。標高約100m附近。明見銅鐸の北側で標高も若干高い。	所有者	今村保彦
				発見の経緯		保管場所	不明
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況	不明。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図(井原)



遺跡写真

備考

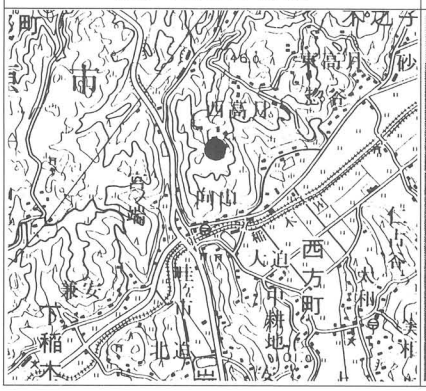
窪田定氏の所蔵銅鐸(『銅鐸の研究』)として登場。その後、梅原の研究によって「下稲木村金安山フカタ池の上寺屋敷出土」として認識される。
東洋文庫に納められている図面類と比較すると、細部に於ては若干異なるが、よく似ている。
明見遺跡の斜面上方30mのところ。

同行者　亀山行雄・岡田　博

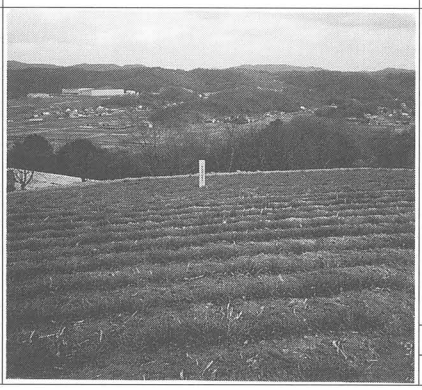
調査年月日	1993年3月9日
調　査　者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（鐸）岡山３	遺跡名	猿ノ森（さわのもり）遺跡	所在地	岡山県井原市木之子町黒岩	発見年	1945年または1946年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式十二区袈裟襷文　1 銅矛			立地	小田川とその支流稲木川にはさまれた標高約120ｍの丘陵頂部からやや下ったところ。眺望良好。	所有者	辰馬考古資料館
				発見の経緯	芋掘り作業中。	保管場所	辰馬考古資料館
						指定の状況	遺跡 遺物　国重要文化財
伴出遺物				出土状況	地表下20cmのところに鐸面を上に向けて45度の傾きで埋まっていた。	文献	梅原末治「岡山県下発見の銅鐸」『吉備考古』第83号　1951年

遺跡の位置図（井原）



遺跡写真



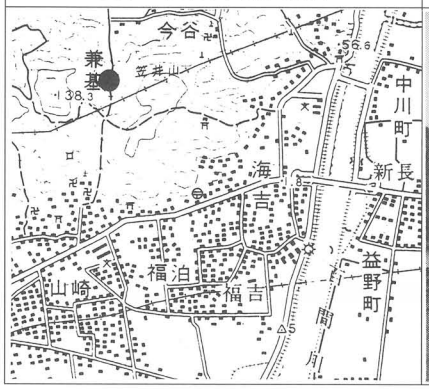
備考

同行者　椿　真治

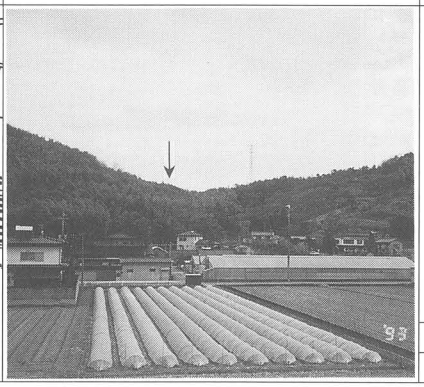
調査年月日	1994年２月24日
調査者	柳浦俊一・岩永省三

番　号	（鐸）岡山12	遺跡名	兼基鳥坂山（かねもととりさかやま）	所在地	岡山市兼基地内	発見年	（１回目）1911年 （２回目）1932年頃 （３回目）1950年４月24日
青銅器の種類	銅剣 銅鐸｛（１回目）不明　高１尺４寸５分 （２回目）不明　高１尺２寸３分 （３回目）扁平鈕２式六区袈裟襷文｝ 銅矛			立地	鳥坂山と笠井山に狭まれた北に開口する谷の奥まった部分の斜面（東・南・西）３箇所から出土。 （岡山市の遺跡地図と、梅原論文では出土場所に若干のちがいがある。）	所有者	３回目鳥坂山のみ現存 岡山県立博物館
				発見の経緯	（１回目）655の６番地から松林から竹ヤブにする作業中。 （２回目）孟宗竹林に造成中。 （３回目）段畑造成中。	保管場所	岡山県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況	不明。	文献	梅原末治「岡山県下発見の銅鐸」『吉備考古』第83号　1951年

遺跡の位置図（岡山南部）



遺跡写真



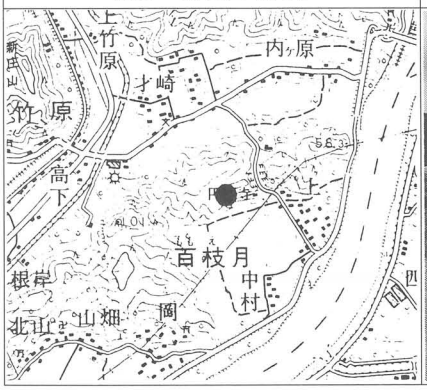
備考

同行者　平井　勝

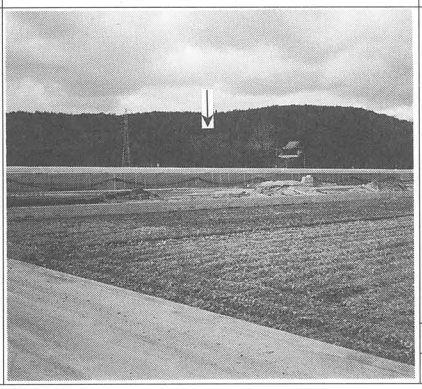
調査年月日	1993年３月８日
調査者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（鐸）岡山15	遺跡名	百枚月遺跡（ももえづき）	所在地	岡山県岡山市百枚月字西畑	発見年	1972年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文２ 小片は外縁付鈕か 銅矛			立　地	丘陵南斜面（頂部よりやや下方）	所有者	岡山大学 邑久町郷土資料館
				発見の経緯	耕作中発見。直後に発掘調査。	保管場所	岡山大学 邑久町郷土資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	埋納坑内に１個は横位に、１個は立位で出土。	文　献	近藤義郎・根本修「岡山市百枚月発見の銅鐸」『考古学研究』19-4　1973年

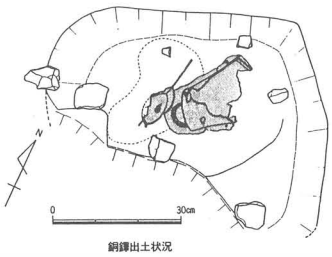
遺跡の位置図（和気）



遺跡写真



備考

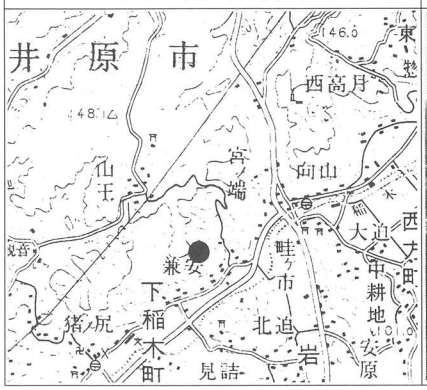


同行者　椿　真治

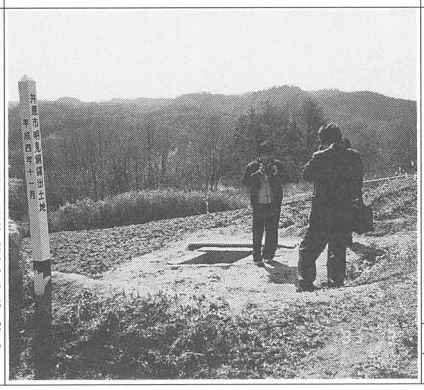
調査年月日	1994年２月24日
調　査　者	岩永省三・柳浦俊一

番　号	（鐸）岡山20	遺跡名	明見銅鐸出土地（みょうけん）	所在地	岡山県井原市下稲木町兼安字明見225-2	発見年	1992年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕２式六区袈裟襷文１ 朱彩 銅矛			立　地	稲木川流域に広がる狭長な平野の地割に張り出した南北にのびる丘陵上南斜面（標高100ｍ、平野との比高約60ｍ）	所有者	個人
				発見の経緯	耕作中（発掘調査により圧痕検出）	保管場所	井原市教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	埋納坑より出土。 （埋納坑の底より浮いた状況で鈕を斜面の上側に向け、鰭を上下にして、ほぼ水平に納められていた。）	文　献	岡山県教育委員会 『岡山県埋蔵文化財報告』23 1993年

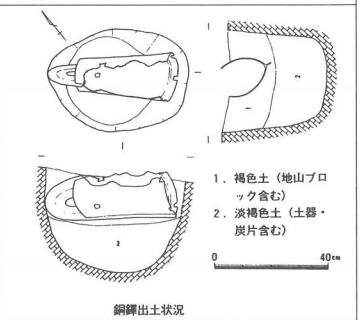
遺跡の位置図（井原）



遺跡写真



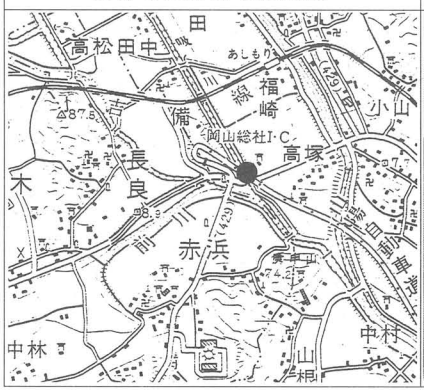
備考



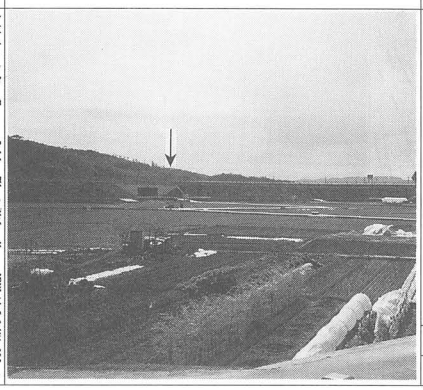
調査年月日	1993年３月９日
調　査　者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（鐸）岡山21	遺跡名	高塚（たかつか）遺跡	所在地	岡山市高塚地内	発見年	1989年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕２式三区流水文　１（フロヤ調査区）（埋納坑） 破片　１（角田調査区）（２次包含層から出土） 銅矛			立地	足守川と砂川の合流点の北方250ｍにある微高地。南１kmに矢部南方遺跡が存在する。	所有者	岡山県教育委員会
				発見の経緯	山陽自動車道の建設に伴う発掘調査。	保管場所	岡山県古代吉備文化財センター
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	若干の弥生土器（後期前半）細片が埋納坑の上層から出土。			出土状況	埋納坑。 鐸身を西南西に置き、鰭が垂直に立つように埋納されていた。 坑内は上下２層に分かれており、上層から弥生土器が出土。	文献	岡本寛久、平井泰男、浅倉秀明「岡山県岡山市高塚遺跡」『日本考古学年報』42　1989年度版　1991年　日本考古学協会

遺跡の位置図（岡山北部）

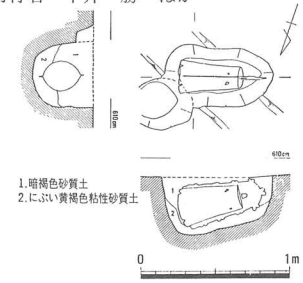


遺跡写真



備考

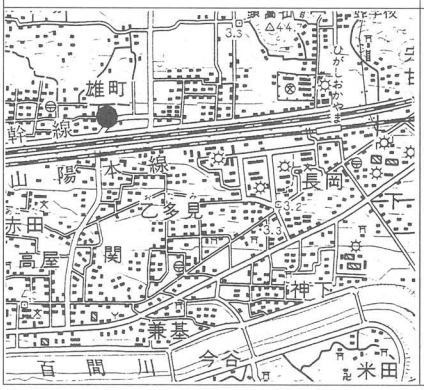
同行者　平井　勝　ほか



調査年月日	1993年３月８日
調査者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（鐸）岡山23	遺跡名	雄町（おまち）遺跡	所在地	岡山県岡山市雄町137番地	発見年	1985年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕１式四区袈裟襷文　１ 銅矛			立地	沖積平野中央部（雄町遺跡の範囲内と考えられる）	所有者	岡山県立博物館
				発見の経緯	土地所有者が鯉のぼりの柱を立てる為、水田を掘り下げたところ出土。	保管場所	岡山県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	鰭を水平にして出土。 埋納坑があったかどうか不明。	文献	高橋護、河本清「岡山県雄町遺跡の銅鐸」『日本考古学年報』38　1985年度版　1987年　日本考古学協会

遺跡の位置図（岡山北部）



遺跡写真

備考

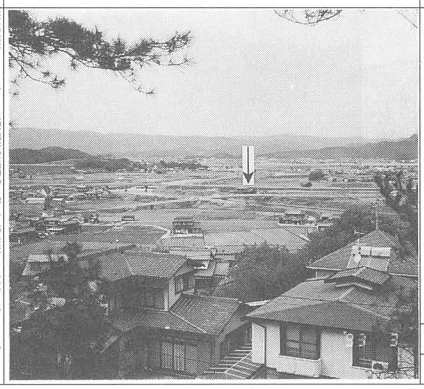
同行者　平井　勝

調査年月日	1993年３月８日
調査者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（鐸）岡山26	遺跡名	矢部南向（やべなんかい）遺跡	所在地	岡山県倉敷市矢部地内	発見年	1987年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　小銅鐸 銅矛			立地	自然堤防上の集落跡（足守川流域）この右岸には楯築、鯉喰神社、雲山鳥打遺跡等の弥生時代終末期の「墳丘墓」がある。	所有者	岡山県教育委員会
				発見の経緯	足守川河川改修工事に伴う発掘調査。	保管場所	岡山県古代吉備文化財センター
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	48号住居跡の柱穴からは３個の完形土器が検出されている→才の町Ⅰ式			出土状況	48号竪穴住居跡、貼り床下土壙。土壙は直径20cm、深さ30cmの円形。鐸身は東北東に向く。鈕は東側にあり、鈕を垂直に立てた状況で出土しており、意識的に埋置されたものと推定。	文献	江見正己「岡山県倉敷市足守川矢部南向遺跡出土の小銅鐸について」考古学雑誌73-4　1988年

遺跡の位置図（岡山北部・岡山南部）

遺跡写真



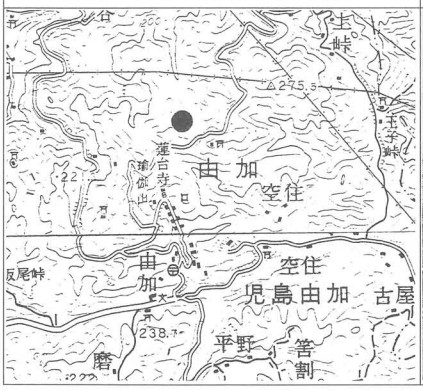
備考

同行者　平井　勝

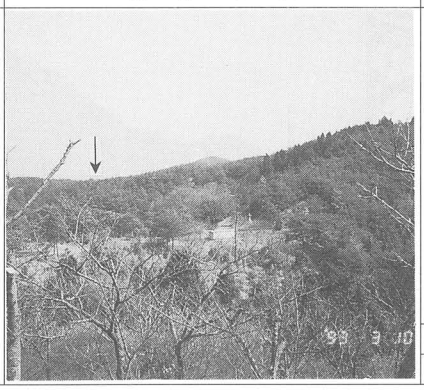
調査年月日	1993年３月８日
調査者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（武）岡山１	遺跡名	瑜伽山（ゆかさん）銅剣出土地	所在地	岡山県倉敷市児島琴浦	発見年	1947年
青銅器の種類	銅剣　平形　4 不明　1（現場で粉失） 銅鐸 銅矛			立地	北に開く谷の西斜面（附近の展望はよくない）。現場附近には岩の露頭がある。	所有者	蓮台寺　2 倉敷考古館　1 個人　1 粉失　1
				発見の経緯	炭窯を作るため、穴を掘って発見。	保管場所	蓮台寺 岡山県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況		文献	末永雅雄「備前瑜伽山出土の銅剣」『考古学雑誌』42-3　1957年

遺跡の位置図（岡山南部・玉野）



遺跡写真



備考

現存する４本のうち２本は研ぎ直して剣身を短く細くしている。

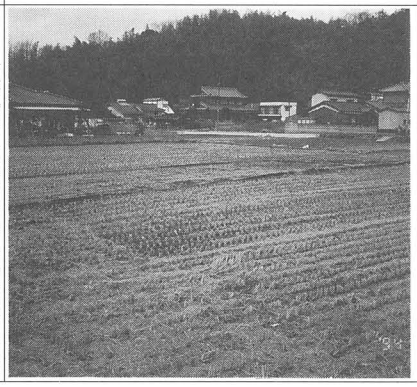
同行者　高橋　護

調査年月日	1993年３月10日
調査者	卜部吉博・今岡一三

番　号	（武）岡山２	遺跡名	鮑浦（あくら）遺跡	所在地	岡山県岡山市鮑浦山本辻	発見年	江戸時代
青銅器の種類	銅剣　細形銅剣Ⅰ式　1 ほか２本 銅鐸 銅矛			立地	北向の小さな湾の東端から出土か。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	不明	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	畑中の大石の下から３本出土と伝えられる。	文献	高橋健自『銅鐸銅剣の研究』1925年

遺跡の位置図（岡山南部）

遺跡写真



備考

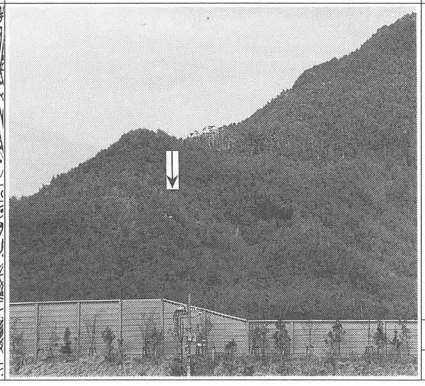
元の所有者が回船問屋（？）であったので他地から買い求めた可能性を否定できない。

調査年月日	1994年２月24日
調査者	岩永省三・柳浦俊一

番　号	（鐸）広島２	遺跡名	福田木（ふくだき）の宗山（むねやま）遺跡	所在地	広島市東区福田字狐が城877-1	発見年	1891年
青銅器の種類	銅剣　中細形ｂ？（西部瀬戸内型）1 銅鐸　外縁付鈕式二区横帯文１ 銅矛 中細形銅戈ｂ類			立地	太田川支流三篠川南側に独立山塊をなす木ノ宗山の南山麓に位置する。前面に細長い谷がひろがる。	所有者	光町清子
				発見の経緯	不明	保管場所	光町清子
						指定の状況	遺跡　広島県指定史跡 遺物　３点とも国重要文化財
伴出遺物	土器（発見時に投棄）			出土状況	高さ３～3.5ｍの巨岩の脇。平石の下から出土。剣と戈は一尺、鐸はさらに三尺はなれて出土。	文献	谷井済一「同所発掘の銅鐸銅剣」考古学雑誌3-10　1913年

遺跡の位置図（海田市）

遺跡写真



備考

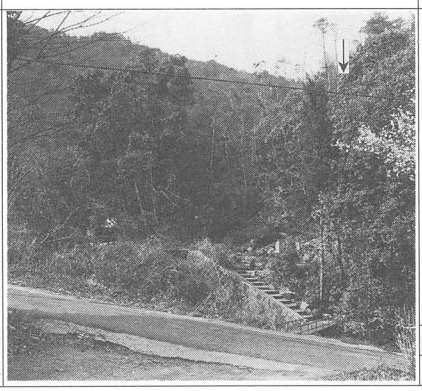
同行者　妹尾周三・谷口恭子

調査年月日	1992年１月16日
調査者	勝部昭・松本岩雄・岩永省三

番　号	(武) 広島5	遺跡名	三郎丸(さぶろうまる)銅剣出土地	所在地	広島県府中市三郎丸大平	発見年	1926年
青銅器の種類	銅剣　深樋式変形銅剣　1 （刳方のない深樋式樋は関まで達し、関端部と茎の計3ヶ所に穿孔） 銅鐸 銅矛			立　地	芦田川の中流域の支流、御調川が形成した沖積地に面した山の斜面。	所有者	水野家（愛知県知多郡美浜町）
				発見の経緯	石の切取中に発見。	保管場所	御堂寺（愛知県知多郡美浜町）
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	赤焼きの土器（谷に廃棄）			出土状況	巨大な岩石の下の大石にあった空隙に埋めずに横にして置かれていた。	文　献	村上正名「備後国出土の青銅器」『広島考古研究』1　1959年

遺跡の位置図（府中）

遺跡写真



備考

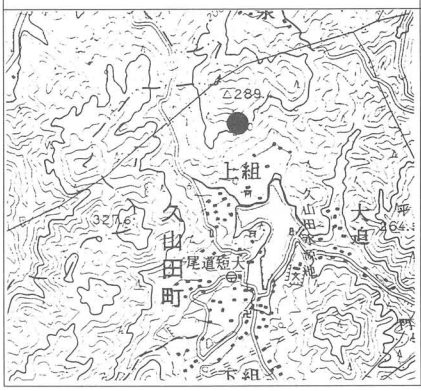
盾石という地名は誤りで字大平が正しい。

同行者　土井基司

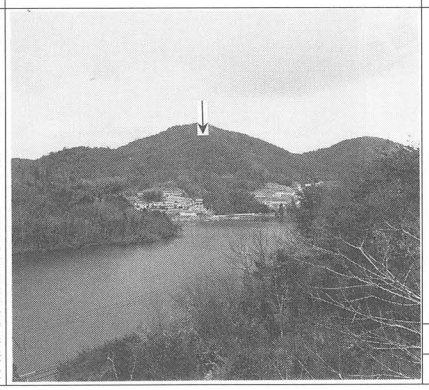
調査年月日	1994年3月9日
調査者	卜部吉博・足立克己

番　号	(武) 広島6	遺跡名	大峰山(おおみねやま)銅剣出土地	所在地	広島県尾道市久山田町	発見年	1960年
青銅器の種類	銅剣　中細形b類（関部に双孔あり）1 中細形b類（鋒側のみ）1 銅鐸 銅矛　中細形b類　1			立　地	大峰山（標高289.6m）の南斜面6合目付近。	所有者	文化庁
				発見の経緯	切石作業中。	保管場所	文化庁
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	青銅器出土地点の西5m下方で弥生土器小片、その8m上方で炭化物片（木炭）出土。			出土状況	折り重なった礫塊の間に、土中に埋められた状態で出土。矛は石に沿って斜めに、銅剣は水平に置かれていた。	文　献	木下忠「尾道市大峰山出土銅鉾銅剣について」『広島考古研究』2　1960年

遺跡の位置図（尾道）



遺跡写真



備考

同行者　森重彰文

調査年月日	1994年3月10日
調査者	卜部吉博・足立克己

番　号	（武）広島７	遺跡名	中山南遺跡（なかさんな）	所在地	広島県沼隈郡沼隈町中山南森迫	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣　平形銅剣Ⅱａ式１ 銅鐸 銅矛			立地	山南川が形成する沖積谷に面した小谷の奥部の正面大岩の下。（かつて夫婦岩という２ｍ程度の立石があったという）	所有者	日枝神社
				発見の経緯		保管場所	日枝神社
						指定の状況	遺跡 遺物　1957年県重要文化財指定
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	村上正名「備後出土の青銅器」『広島考古研究』１　1959年

遺跡の位置図（福山）

遺跡写真

備考

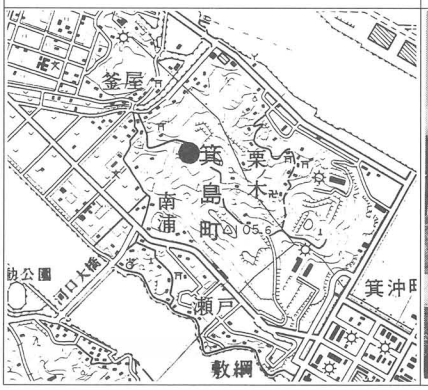
・熊ヶ峰出土銅剣と同笵とされている。
・日枝神社神宝として伝世する。

同行者　園尾　裕・佐道弘之

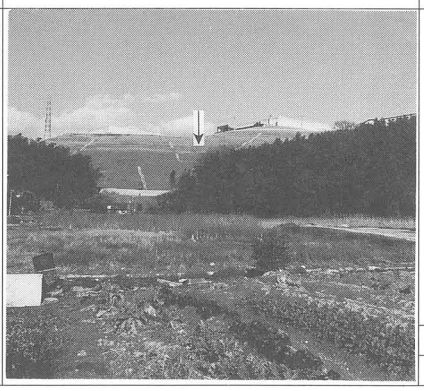
調査年月日	1994年３月10日
調査者	卜部吉博・足立克己

番　号	（武）広島８	遺跡名	福禅寺谷遺跡（ふくぜんじだに）	所在地	広島県福山市箕島	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣　細形銅剣１ （剣身上半のみ、所在不明） 銅鐸 銅矛			立地	箕島は芦田川河口に所在する小島で、遺跡は芦田川に向かう小さな谷の正面奥の丘陵斜面。	所有者	不明
				発見の経緯	畑の開墾中に発見。	保管場所	不明
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	キツネ岩という大岩があり、その斜面下方で出土したという。	文献	村上正明「備後出土の青銅器」『広島考古研究』１　1959年

遺跡の位置図（福山）



遺跡写真



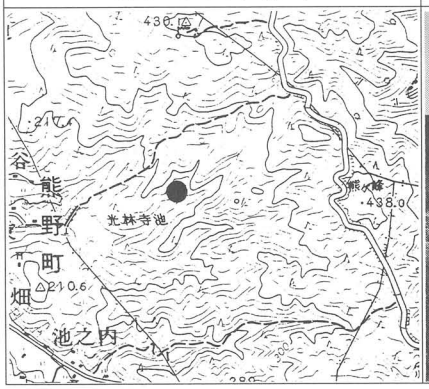
備考

同行者　園尾　裕・佐道弘之

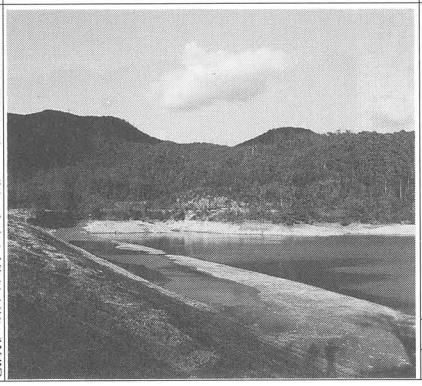
調査年月日	1994年３月10日
調査者	卜部吉博・足立克己

番　号	(武) 広島9	遺跡名	熊ヶ峰遺跡	所在地	広島県福山市熊野町	発見年	1931・1932頃
青銅器の種類	銅剣　○平形IIa式　1 ○断片（所在不明） 銅鐸 銅矛			立　地	彦山・熊ヶ峰山系の西側斜面。正確な位置は全く不明。	所有者	小林光顕
				発見の経緯	松茸狩りの途中に発見	保管場所	小林光顕
						指定の状況	遺跡 遺物　県重要文化財(考古資料)
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	村上正名 「備後国土平形銅剣の新資料」 『考古学雑誌』37-1　1951年

遺跡の位置図（福山）



遺跡写真



備考

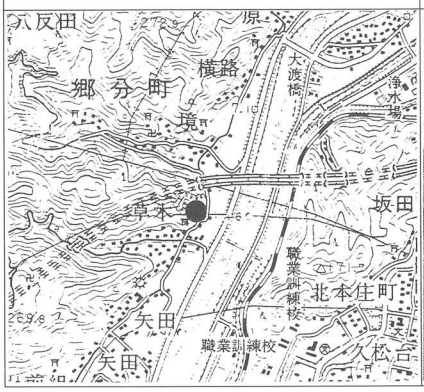
○広島県沼隈郡沼隈町中山南日枝神社出土品と同笵とする説あり。
○断片も１本発見されたが、所在不明。

同行者　園尾　裕・佐道弘之

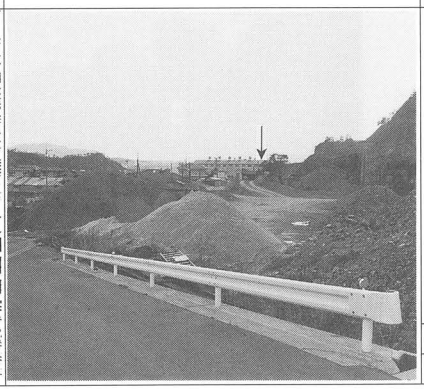
調査年月日	1994年３月10日
調　査　者	卜部吉博・足立克己

番　号	(武) 広島10	遺跡名	大迫遺跡	所在地	広島県福山市郷分町奈良木	発見年	1958年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中細形　1 (鋒部のみ)			立　地	芦田川が神辺平野から福山デルタに出るところで、断層山脈が最も川に迫ったあたり。芦田川西方の山脈の最先端部。	所有者	井上英弘
				発見の経緯	岩石を掘り出し中に発見	保管場所	福山市立福山城博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	土器が伴出したらしいが捨てられた。			出土状況	巨大な岩肌の露出したところの下	文　献	村上正名「備後出土の青銅器」 『広島考古研究』1　1959年

遺跡の位置図（井原・福山）



遺跡写真



備考

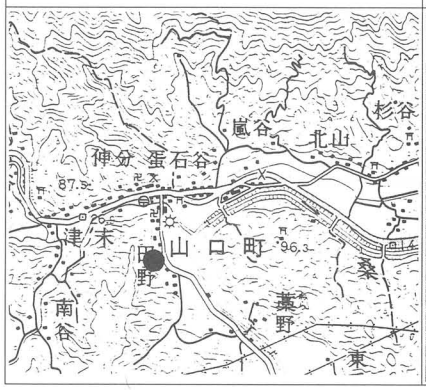
残存長20㎝、身幅折損部で3.7㎝。
○脊が空洞なので矛と思われる。
○朱と思われる赤色顔料が巣の中に観察されている。

同行者　園尾　裕・佐道弘之

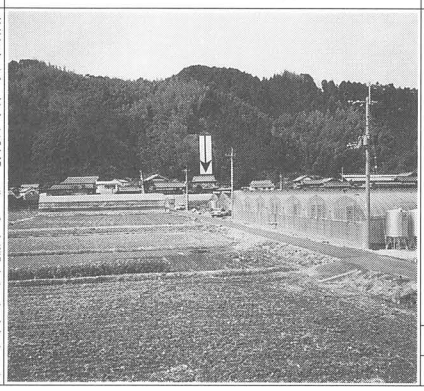
調査年月日	1994年３月10日
調　査　者	卜部吉博・足立克己

番　号	（鐸）徳島９	遺跡名	田村谷（たむらだに）銅鐸出土地	所在地	徳島県阿南市山口町字末広	発見年	1911年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕式六区流水文　1 銅矛			立　地	丘陵東側斜面（比高25～30ｍ）	所有者	田村藤太郎
				発見の経緯	竹の根による降起出土。	保管場所	徳島県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　国指定重要文化財（1962年２月２日）
伴出遺物	なし			出土状況	鈕鈕を上にして山の傾斜面に添うようにやや斜めに埋没していたと推定される。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図（阿波富岡）



遺跡写真



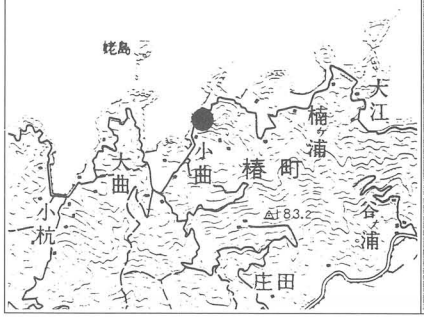
備考

同行者　阿部里司

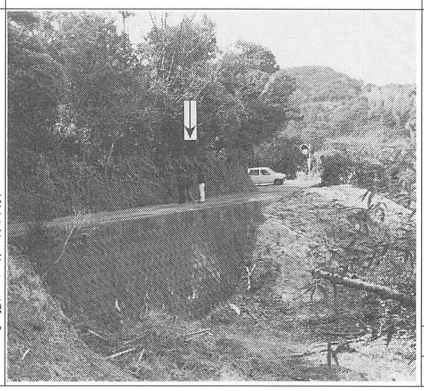
調査年月日	1993年３月３日
調査者	宮澤明久・宍道年弘

番　号	（鐸）徳島13	遺跡名	曲（まが）り銅鐸出土地	所在地	徳島県阿南市椿町曲り	発見年	1921年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文　2 銅矛			立　地	海を望む北側斜面中腹。（Ｌ＝約10ｍ）	所有者	１号鐸（松浦菊雄） ２号鐸（辰馬悦蔵）
				発見の経緯	植林中	保管場所	１号鐸（徳島県立博物館） ２号鐸（辰馬考古資料館）
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物				出土状況	斜面下60cmくらいの赤土層から鈕を下にして重なるようにして出土したらしいが、詳細不明。	文　献	梅原末治『銅鐸の研究』1927年

遺跡の位置図（阿波富岡）



遺跡写真



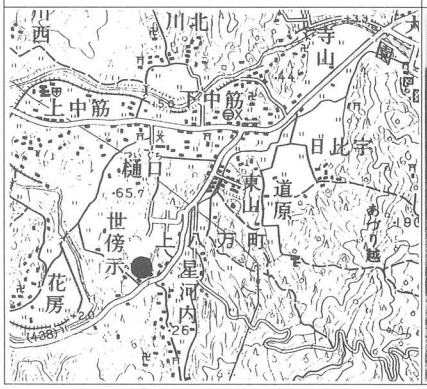
備考

同行者　阿部里司

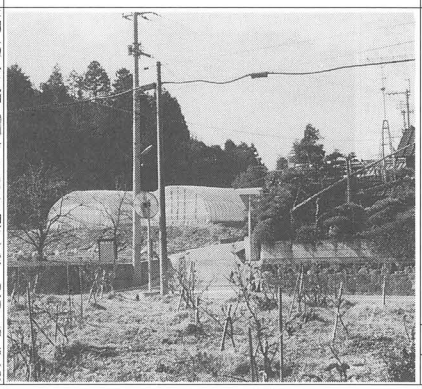
調査年月日	1993年３月３日
調査者	宮澤明久・宍道年弘

番　号	(鐸) 徳島15	遺跡名	星河内美田遺跡	所在地	徳島県徳島市上八万町大字星河内字美田	発見年	1932年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文　7 銅矛			立　地	丘陵斜面	所有者	1号 (東北大学 徳島県立博物館) 2～7号　同志社大学
				発見の経緯	土砂採取	保管場所	徳島県立博物館 東北大学 同志社大学
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	三木文雄「終末期の扁平小銅鐸について」『国学院雑誌』78-9。1976年

遺跡の位置図（徳島）



遺跡写真



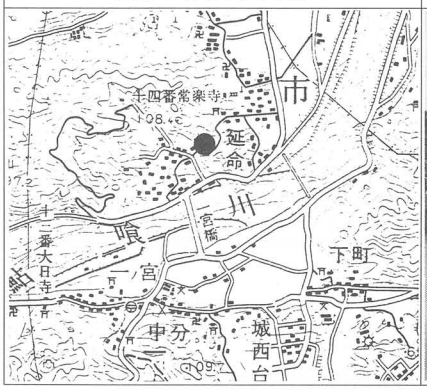
備考

同行者　菅原康夫

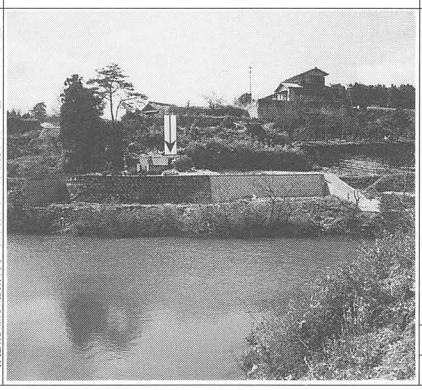
調査年月日	1993年3月2日
調査者	宮澤明久・宍道年弘

番　号	(鐸) 徳島16	遺跡名	源田遺跡	所在地	徳島県徳島市国府町矢野源田650-1	発見年	1948年3月
青銅器の種類	銅剣　中広形　1 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文　2 突線鈕式六区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	丘陵北側斜面	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	山林開墾中	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	銅鐸はそれぞれ約1mの距離で三角形の頂点の位置に出土。銅剣はその中央に鋒を斜面上方に向けて出土。	文　献	三木文雄「阿波国源田出土の銅剣銅鐸とその遺蹟」『考古学雑誌』36-2。1950年

遺跡の位置図（川島）



遺跡写真



備考

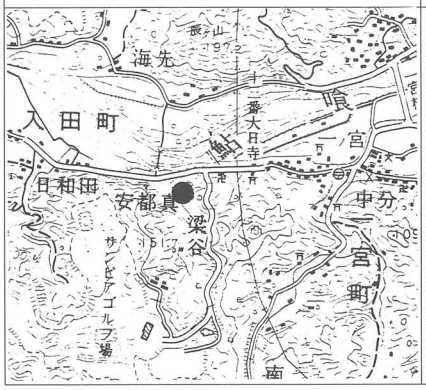
摂津津門鐸・阿波上浦鐸に類似。
1948年9月に出土地点の発掘調査が行なわれ、銅鐸の破片が出土して位置関係がほぼわかっている。

同行者　菅原康夫

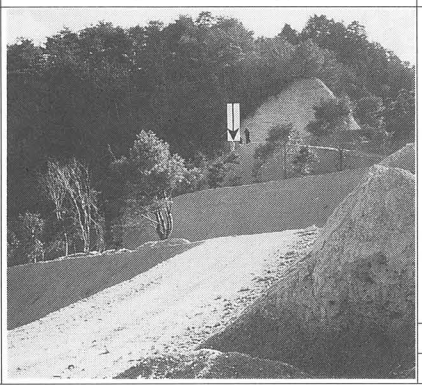
調査年月日	1993年3月2日
調査者	宮澤明久・宍道年弘

番　　号	（鐸） 徳島17	遺跡名	安都真（あづま）遺跡	所 在 地	徳島県 徳島市入田町安都真168	発見年	1959年８月26日
青銅器の種　類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文　4 銅矛			立　　地	鮎喰川右岸の丘陵東向斜面の中腹。（標高約70ｍ、比高約30ｍ）30～35度の急斜面の中腹で15度ぐらいの緩傾斜地。	所有者	高橋寛一
				発見の経緯	山林開墾中	保　管 場　所	徳島県立博物館
						指定の 状　況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	鈕を斜め上にして鰭を立て、最も大きい１号鐸を中央に、その両側に２・３号鐸を並べておき、その上に４号鐸が鰭を水平にして置かれていたと推定される。	文　献	三木文雄「阿波国安都真出土の銅鐸とその遺跡」『考古学雑誌』50-4。1965年

遺跡の位置図（川島）



遺　跡　写　真



備　　考

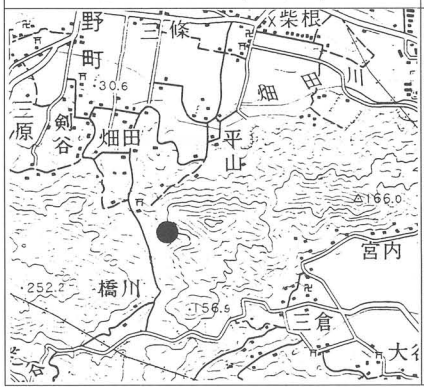
１号鐸は岡山県種松山出土銅鐸と同笵。

同行者　菅原康夫

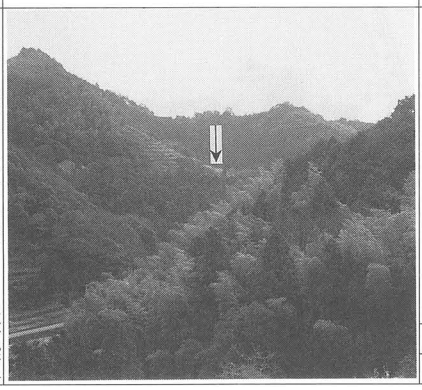
調査年月日	1993年３月２日
調　査　者	宮澤明久・宍道年弘

番　　号	（鐸） 徳島18	遺跡名	畑田	所 在 地	徳島県阿南市大野字畑田68	発見年	1965年
青銅器の種　類	銅剣 銅鐸　突線鈕式　1 銅矛			立　　地	北にひらく谷の東側斜面中腹。（Ｌ＝約75ｍ）平野部を見わたすことができないところ。	所有者	国立歴史民俗博物館
				発見の経緯	山林開墾中	保　管 場　所	国立歴史民俗博物館
						指定の 状　況	遺跡 遺物
伴出遺物	開元通宝・唐国通宝			出土状況	地表から20cmの深さに、傾斜に沿って鈕を上、鰭を水平にして横位の状態で出土したという。	文　献	三木文雄「内凸帯のない新出土の銅鐸とその類型について」『考古学雑誌』52-4　1967年

遺跡の位置図（阿波富岡）



遺　跡　写　真



備　　考

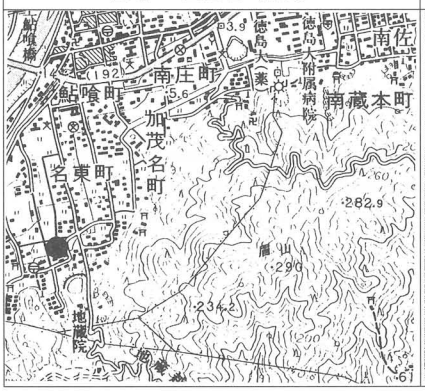
内面突帯を欠く。

同行者　阿部里司

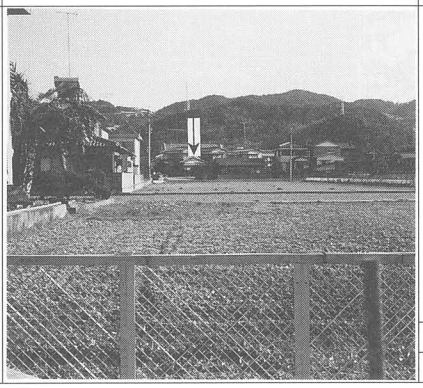
調査年月日	1993年３月３日
調　査　者	宮沢明久・宍道年弘

番　号	（鐸）徳島27	遺跡名	名東遺跡（みょうどう）	所在地	徳島県徳島市名東町２丁目332番地外	発見年	1987年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	標高約７ｍの沖積微高地	所有者	徳島市教育委員会
				発見の経緯	神殿建設に伴う事前調査（徳島市教育委員会）	保管場所	徳島城博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　県指定有形文化財（考古資料）
伴出遺物				出土状況	隅丸長方形状の埋納壙	文　献	徳島市教育委員会『名東遺跡発掘調査概要』1987年

遺跡の位置図（徳島）

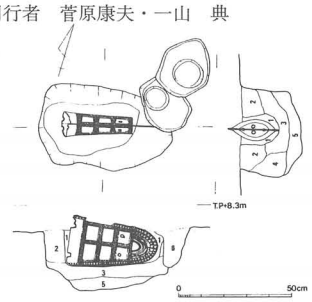


遺跡写真



備考

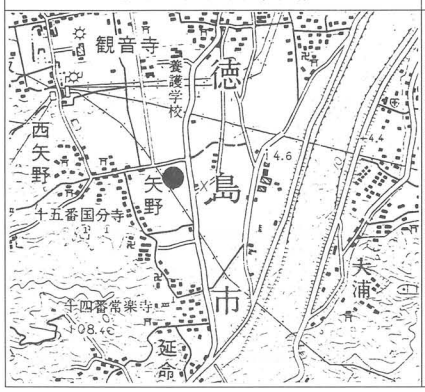
同行者　菅原康夫・一山　典



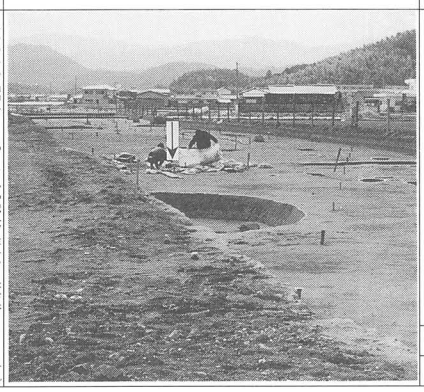
調査年月日	1993年３月２日
調　査　者	宮澤明久・宍道年弘

番　号	（鐸）徳島28	遺跡名	矢野遺跡（やの）	所在地	徳島県徳島市国府町矢野	発見年	1992年12月18日
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　突線鈕式六区袈裟襷文　1 銅矛			立　地	鮎喰川左岸の微高地（Ｌ＝約10ｍ）	所有者	徳島県
				発見の経緯	国道192号徳島南環状線建設に伴う事前調査	保管場所	徳島県立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物　国指定重要文化財
伴出遺物				出土状況	隅丸長方形の埋納坑。 鐸の内部及び外側に微細な砂質土を詰めている。	文　献	財団法人徳島県埋蔵文化財センター『矢野銅鐸』1993年

遺跡の位置図（川島）

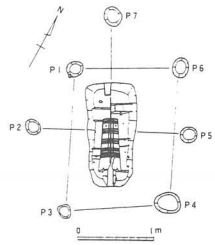


遺跡写真



備考

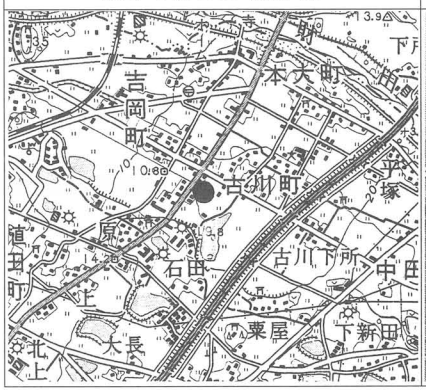
同行者　菅原康夫



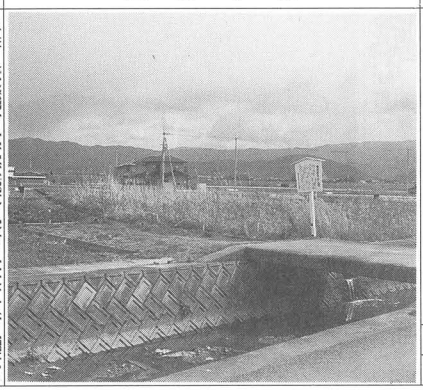
調査年月日	1993年３月２日
調　査　者	宮澤明久・宍道年弘

番　号	（鐸）香川６	遺跡名	古川（ふるかわ）遺跡	所在地	香川県観音寺市古川町南下	発見年	1923年４月17日
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕式二区流水文 銅矛			立　地	標高約10ｍの平地。財田川左岸の水田地帯。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	土地所有者宮武慶五郎父子が麦畑を耕作中に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地表下約２尺、鰭を上下にし、鈕をやや深くした状態であったという。	文　献	上原準一「讃岐国三豊郡一ノ谷村古川発見の銅鐸について」『考古学雑誌』13-11、1923年

遺跡の位置図（観音寺）



遺　跡　写　真



備　　考

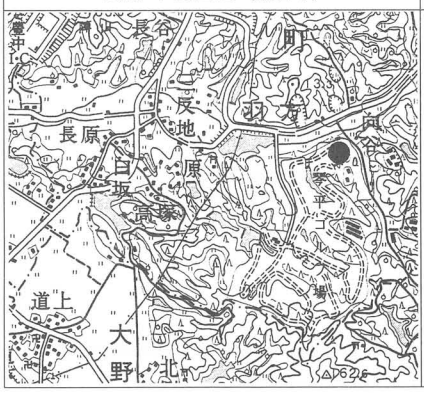
一説には西方の台地上、旧豊田村分出土ともいう。
鳥取市越路出土鐸と同笵
銅鐸出土地近くに一の谷遺跡（弥生後期～古墳時代集落）がある。

同行者　片桐孝治

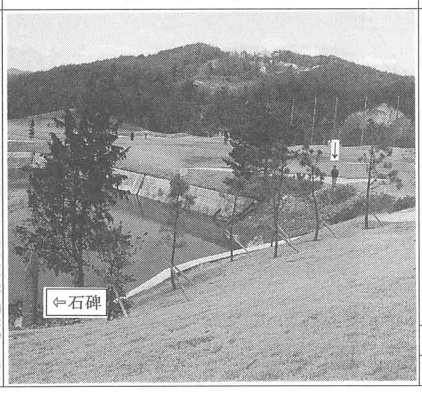
調査年月日	1993年３月18日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　号	（鐸）香川８	遺跡名	羽方（はがた）遺跡	所在地	香川県三豊郡高瀬町羽方西ノ谷2841-2	発見年	1927年２月11日
青銅器の種類	銅剣　平形銅剣Ⅱａ式　１ 銅鐸　扁平鈕式六区袈裟襷文　１ 銅矛			立　地	北西方向に開く谷部。標高約45ｍの丘陵西側斜面。出土地からの視界は狭い。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	山下武雄・大西国八の二少年が丘陵斜面で偶然に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	銅鐸は地表下約50㎝、鰭を上下にし、鈕を東北に向ける。 剣は鐸の横３㎝のところで刺状突起を上下にし、鐸の主軸に並行して置かれていた。	文　献	上原準一「讃岐国三豊郡二ノ宮村大字羽方字西ノ谷発見の銅鐸及び銅剣とその出土状態について」『考古学雑誌』17-9　1927年

遺跡の位置図（観音寺）



遺　跡　写　真



備　　考

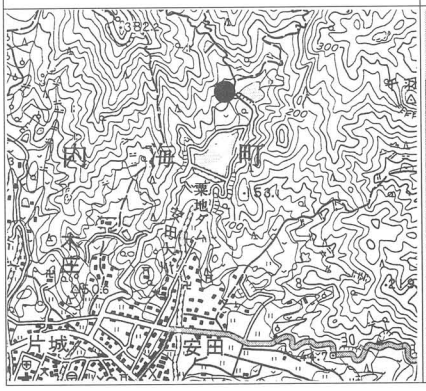
現在、ゴルフ場。1931年、出土地に石碑が建てられたが、ゴルフ場造成に伴い、石碑の位置が約100ｍ移設されている。

同行者　片桐孝治

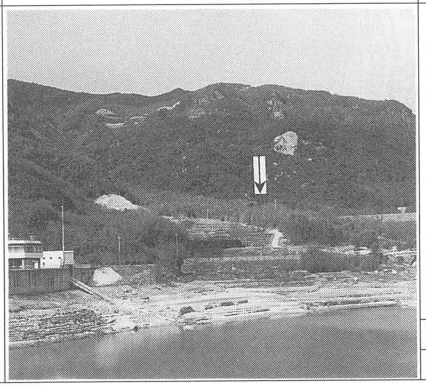
調査年月日	1993年３月18日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　号	（鐸）香川10	遺跡名	安田極ヶ谷遺跡（やすだごくがたに）	所在地	香川県小豆郡内海町安田極谷ヶ谷2224	発見年	銅鐸　1929年4月 銅剣　1932年、1970年
青銅器の種類	銅剣　東部瀬戸内系平形　1 平形Ⅱ式　1 銅鐸　扁平鈕式四区袈裟襷文　1 銅矛			立地	標高約100ｍの丘陵斜面。出土地から南方のみは安田川流域の低地がひらけ、内海湾を望むことができる。	所有者	小豆島バス株式会社
				発見の経緯	土庄町の庭師藤原金一が庭石採石中に発見。	保管場所	内海町民俗資料館 瀬戸内海歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物　内海町指定文化財（1973年3月26日）
伴出遺物	なし			出土状況	銅鐸・岩塊数個の上に巨石があり、その隙間から、鈕を上にして出土。 銅剣・銅鐸出土地点から約2ｍの西方の自然石塊の間より出土。	文献	寺田貞次「銅鐸銅剣を出せる小豆島安田遺蹟」『考古学』8-7 1937年7月

遺跡の位置図（草壁）



遺跡写真



備考

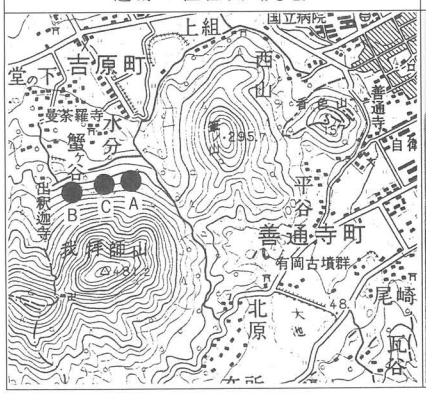
1970年、香川県教育委員会の調査により平形銅剣の下端の一部（長さ6㎝、幅4㎝）が出土。近くから弥生中・後期の土器片も出土。

同行者　石井信雄

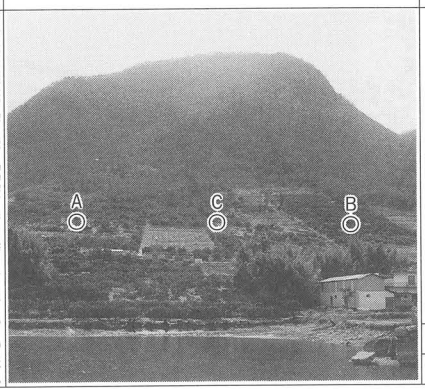
調査年月日	1993年3月19日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	（鐸）香川12	遺跡名	我拝師山C地点（がはいしやま）	所在地	香川県善通寺市吉原町我拝師山980-109	発見年	1966年1月
青銅器の種類	銅剣 銅鐸　外縁付鈕式二区流水文　1 銅矛			立地	我拝師山（標高481ｍ）の北麓。銅剣出土地（A・B地区）に挟まれた山畑。150ｍ東がA地点、100ｍ西がB地点である。	所有者	文化庁
				発見の経緯	開墾中に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地表に近く、落葉をかぶる程度であったらしい。発見者によれば鰭が水平の状態であったという。	文献	石川巌、松本豊胤「香川県善通寺市我拝師山出土銅鐸」『日本考古学協会第32回総会研究発表要旨』1966年

遺跡の位置図（丸亀）



遺跡写真



備考

同笵鐸
大阪府豊中市大字桜塚原田神社境内出土鐸
大阪府東奈良遺跡出土鋳型

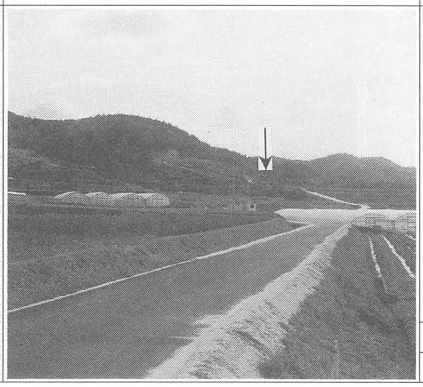
同行者　笹川龍一・片桐孝治

調査年月日	1993年3月17日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	（武）香川１	遺跡名	藤（ふじ）の谷（たに）遺跡	所在地	香川県観音寺市粟井町2888	発見年	1900年頃
青銅器の種類	銅剣　細形銅剣Ⅰ式　3 銅鐸 銅矛			立地	菩提山（312ｍ）の支派、北西に延びた丘陵上（約50ｍ）に位置する。出土地から三豊平野全域を見渡せる。	所有者	大喜多　勇
				発見の経緯	藤の谷に住む大喜多菅造が井戸に使用する石を採集している時に発見。	保管場所	観音寺市郷土資料館
						指定の状況	遺跡 遺物　香川県指定文化財（考古資料）
伴出遺物	なし			出土状況	石が累積しており、上方から次々と取り進むと、その石敷の下の土中に３本の銅剣が重ねて置いてあったという。	文献	福家惣衛「香川県出土の銅剣」『考古学雑誌』37-4　1951年

遺跡の位置図（観音寺）

遺跡写真



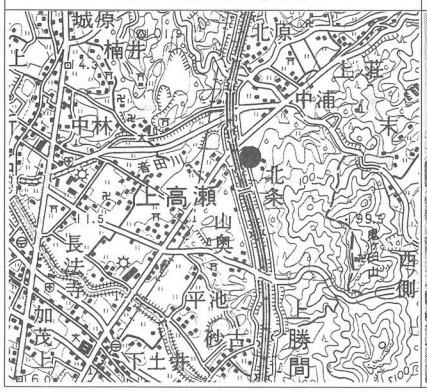
備考

同行者　片桐孝治

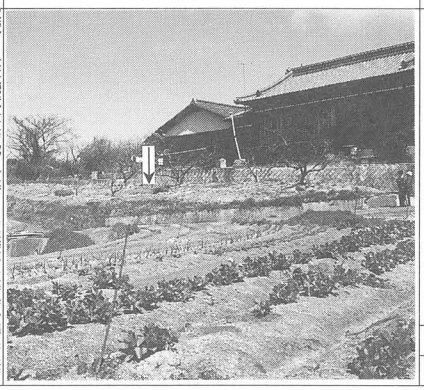
調査年月日	1993年３月18日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	（武）香川４	遺跡名	北条（ほうじょう）遺跡	所在地	香川県三豊郡高瀬町大字上高瀬字北条	発見年	1850年頃
青銅器の種類	銅剣　平形銅剣Ⅱｂ式　3 銅鐸 銅矛			立地	鬼臼山の尾根が北北西にのびて広がっている低丘陵緩斜面。	所有者	瀬戸内海歴史民俗資料館
				発見の経緯	江戸時代の終りごろ、香川関治が屋敷の西隅の籔のあたりを開墾中に発見。	保管場所	瀬戸内海歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物　香川県指定文化財（考古資料）
伴出遺物	なし			出土状況	落葉に覆われた高さ50～60㎝の自然石を取り除いていた時に発見。	文献	香川県教育委員会編『新編香川叢書』1982年

遺跡の位置図（仁尾）



遺跡写真



備考

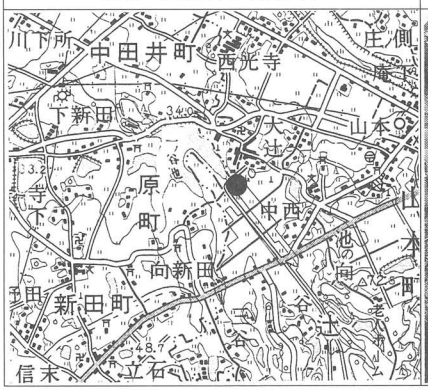
銅剣が出土したところは、自然石がごろごろと盛り上げられており、そばに火を焚いた跡があったという。

同行者　片桐孝治

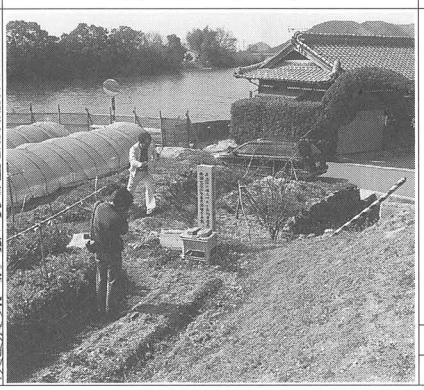
調査年月日	1993年３月18日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	(武) 香川6	遺跡名	辻西遺跡	所在地	香川県三豊郡山本町辻西3120番地	発見年	1818年1月
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形　1			立　地	台地状地形のゆるやかな斜面。標高約40m。	所有者	国祐寺
				発見の経緯	原忠治が開墾中に発見したという。	保管場所	国祐寺
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	高橋邦彦「銅鉾・古墳」『文化財協会報』特別号第3集　1958年

遺跡の位置図（観音寺）



遺跡写真



備考

出土地点に石碑が建てられている。

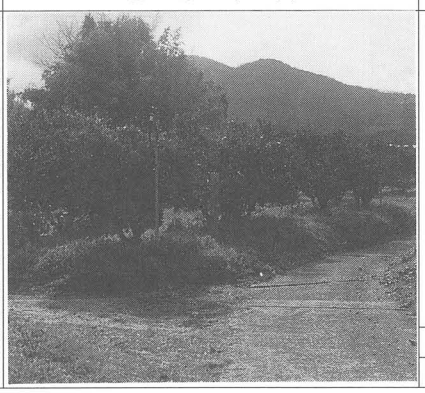
同行者　片桐孝治

調査年月日	1993年3月18日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　号	(武) 香川8	遺跡名	瓦谷遺跡	所在地	香川県善通寺市善通寺町瓦谷（俗称殿林）	発見年	1918年5月27日
青銅器の種類	銅剣　中細形b類　2 中細形c類　4 平形　2 銅鐸 銅矛　中細形　1			立　地	標高616m大麻山（象頭山）の北西麓（標高90m）にあたる。出土地の北方には善通寺の平地を望むことができる。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	石谷邦治が雑木林を開墾中に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	梅原末治「装飾文のある銅剣について―備前瑜伽山と讃岐瓦谷の出土品―」『吉備考古』1951年

遺跡の位置図（丸亀）

遺跡写真



備考

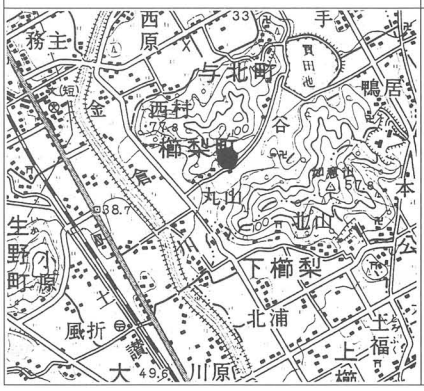
現況はミカン畑で、出土地点には石柱がある。
出土地点の北西側低地には弥生遺跡がある。

同行者　笹川龍一・片桐孝治

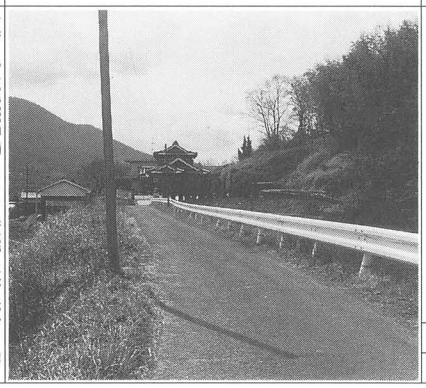
調査年月日	1993年3月17日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　　号	（武）香川11	遺跡名	陣山遺跡（じんやま）	所 在 地	香川県善通寺市与北町谷陣山	発見年	1942年～43年の春
青銅器の種　類	銅剣　平形Ⅱｂ式　3 銅鐸 銅矛			立　　地	陣山（鉢伏山、標高123ｍ）の南麓丘陵斜面。峠にあたり、眺望が良い。	所有者	讃岐宮
				発見の経緯	奈良多三郎が山林を開墾中に発見。	保　管場　所	善通寺市立郷土館
						指定の状　況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地下40～50㎝、鋒と茎を交互に３本重ねてあった。剣の下には20～30個の扁平な河原石を１㎡程の広さに敷きつめていた。	文　献	福家惣衛「香川県出土の銅剣」『考古学雑誌』37-4　1951年

遺跡の位置図（丸亀）



遺　跡　写　真



備　　考

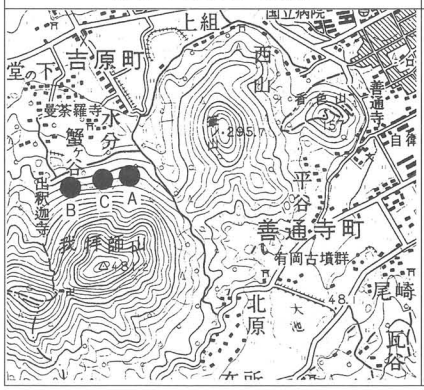
現在、正確な出土地点は不明。

同行者　片桐孝治

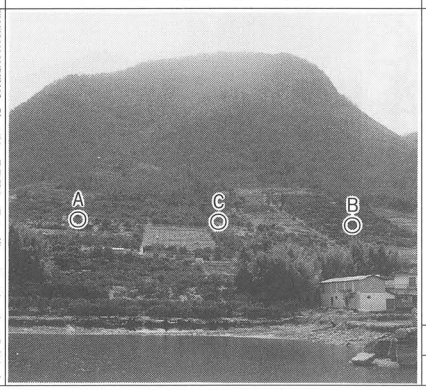
調査年月日	1993年３月17日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　　号	（武）香川12	遺跡名	我拝師山（がはいしやま）Ａ地点	所 在 地	香川県善通寺市吉原町我拝師山	発見年	1934年３月
青銅器の種　類	銅剣　平形Ⅱｂ式　4 銅鐸 銅矛			立　　地	我拝師山（標高481ｍ）の北麓。出土地点は標高約100ｍの丘陵緩斜面で、眼下に平野を一望できる。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	山林を開墾中に発見。	保　管場　所	東京国立博物館
						指定の状　況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地下40～50㎝。４本が一束になって東西方向に埋蔵されていたらしい。	文　献	寺田貞次「讃岐我拝師山発見銅剣と善通寺附近の上代文化」『考古学雑誌』29-11　1939年

遺跡の位置図（丸亀）



遺　跡　写　真



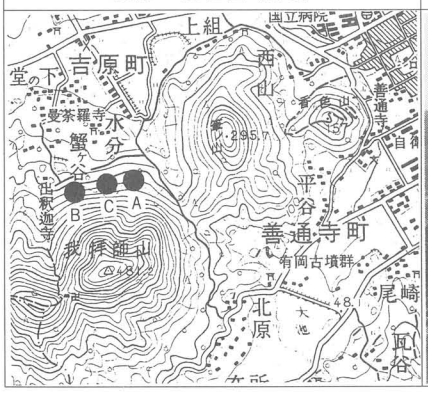
備　　考

同行者　笹川龍一・片桐孝治

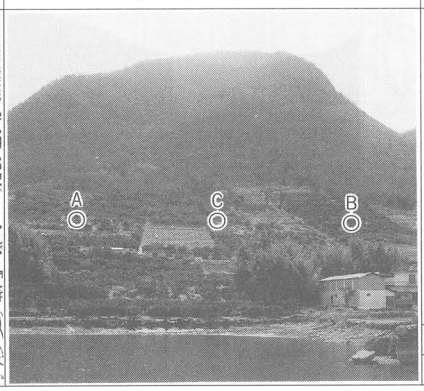
調査年月日	1993年３月17日
調　査　者	平野芳英・松本岩雄

番　号	(武) 香川13	遺跡名	我拝師山(がはいしやま)B地点	所在地	香川県善通寺市吉原町我拝師山	発見年	1939年5月
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱb式　1 銅鐸 銅矛			立　地	我拝師山(標高481m)の北麓。出土地点はA地点の西約250mで、A地点よりやや低い位置。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	開墾中に発見。	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	分銅形土製品(銅剣発見地の側近から後出)			出土状況	子供の鍬先にかかったもので、表土よりあまり深くなく、東西に向いていたという。	文　献	寺田貞次「讃岐我拝師山発見銅剣と善通寺町附近の上代文化」『考古学雑誌』29-11　1939年

遺跡の位置図(丸亀)



遺跡写真



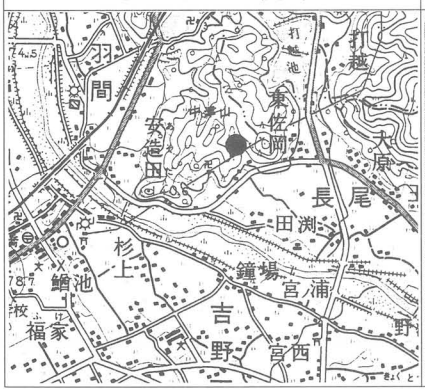
備考

同行者　笹川龍一・片桐孝治

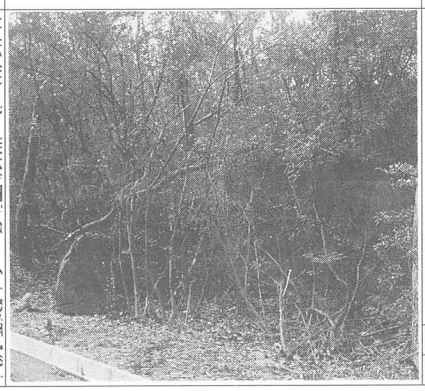
調査年月日	1993年3月17日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	(武) 香川15	遺跡名	佐岡(さおか)遺跡	所在地	香川県仲多度郡満濃町長尾字東佐岡(俗称岩谷)	発見年	1949年9月
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱb式　2 銅鐸 銅矛			立　地	南に開く小谷の奥部。丘陵斜面。出土地の上方には池が造られており、この谷は湧水がある。	所有者	長炭小学校
				発見の経緯	地元の農業松下繁一が草刈中に岩の間から一部露出していたものを抜き取った。	保管場所	瀬戸内海歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	斜面に大岩が露出しており、その間から出土したという。	文　献	香川県教育委員会編『新編香川叢書』1983年

遺跡の位置図(丸亀)



遺跡写真



備考

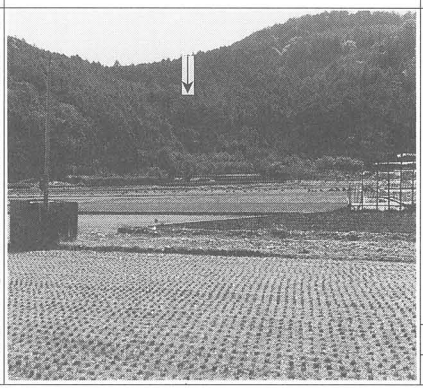
同行者　片桐孝治

調査年月日	1993年3月17日
調査者	平野芳英・松本岩雄

番　号	(武) 愛媛２	遺跡名	大窪台遺跡（おおくぼだい）	所在地	愛媛県東宇和郡 宇和町久枝大窪台	発見年	1668年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　広形　1 不明　4（現存せず）			立地	二説あり。旧説は大窪台の丘陵上。新説は谷ケ内遺跡に面した丘陵斜面。（写真は新説の地点）	所有者	本田照昌
				発見の経緯	不明	保管場所	本田照昌
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	長山源雄「南予にて発見の銅鉾」人類学雑誌31-6　1916年

遺跡の位置図（八幡浜・卯之町）

遺跡写真



備考

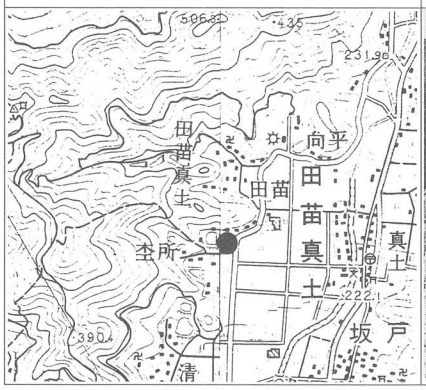
その他に
寛文８年３月発見　８本
寛文10年　　発見　６本
享保14年　　発見　15本
宝永７年11月発見　11本
が
伝えられているが実態は不明

同行者　鈴木友三郎ほか

調査年月日	1993年12月９日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛７	遺跡名	杢所遺跡（もくしょ）	所在地	愛媛県東宇和町宇和町杢所付近	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形　1			立地	宇和川の沖積平野に面した丘陵の裾部（現在は池の堤防）	所有者	杢所八阪神社
				発見の経緯	四国巡礼の遍路が巡礼の途中に掘り出したと伝えられている。	保管場所	宇和町歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	松岡文一「愛媛県下の青銅器」愛媛考古学６　1964年

遺跡の位置図（八幡浜・卯之町）



遺跡写真

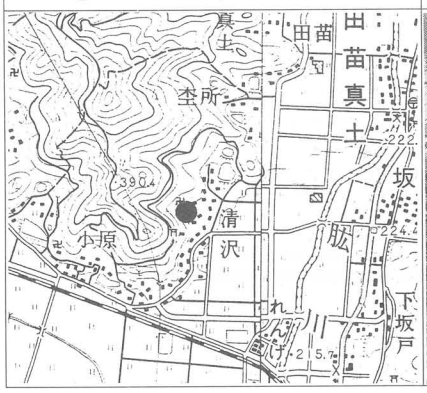
備考

同行者　鈴木友三郎ほか

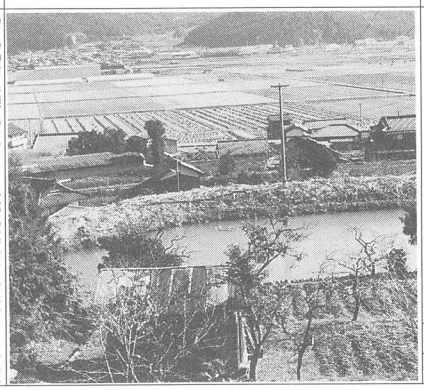
調査年月日	1993年12月９日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛9	遺跡名	清沢遺跡	所在地	愛媛県東宇和郡宇和町 清沢観寂寺付近？	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱ式　3 銅鐸 銅矛			立　地	宇和川の流れるせまい平野に面した段丘上	所有者	宇和町歴史民俗資料館1 松山市立埋蔵文化財センター1
				発見の経緯	不明、諸説あり	保管場所	宇和町歴史民俗資料館1 松山市立埋蔵文化財センター1
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	松岡文一「愛媛県下の青銅器」(愛媛考古学6) 1964年

遺跡の位置図（八幡浜・卯之町）



遺跡写真



備考

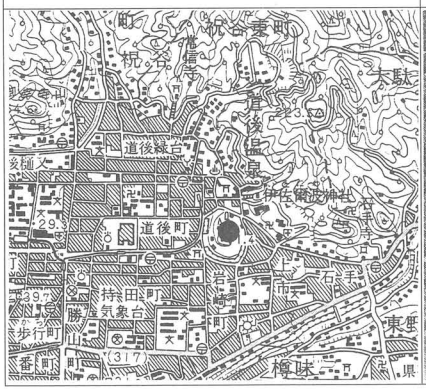
実見した銅剣のうち1口は松山市樋又出土のものかもしれないという。

同行者　鈴木友三郎ほか

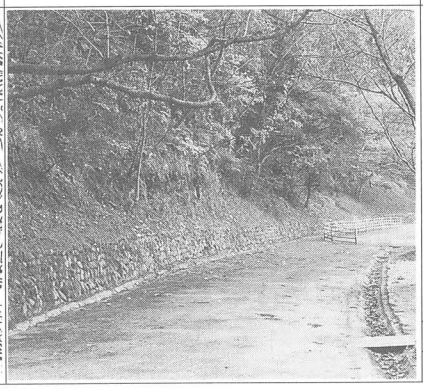
調査年月日	1993年12月9日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛11	遺跡名	道後公園山麓遺跡	所在地	松山市道後湯月城域内	発見年	1905年
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱ式3（現存1） 銅鐸 銅矛			立　地	山裾	所有者	個人
				発見の経緯	運動場開設中	保管場所	個人
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文　献	上原準一「伊予国道後湯ノ町発見の平形銅剣」(考古学1-1) 1930年

遺跡の位置図（松山北部）



遺跡写真



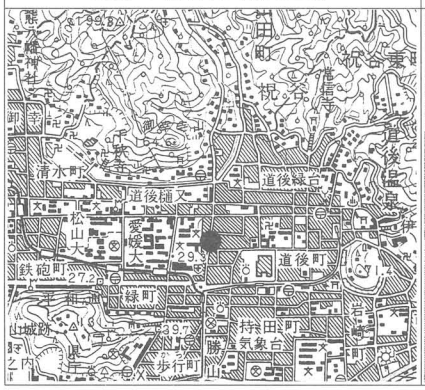
備考

同行者　西尾幸則

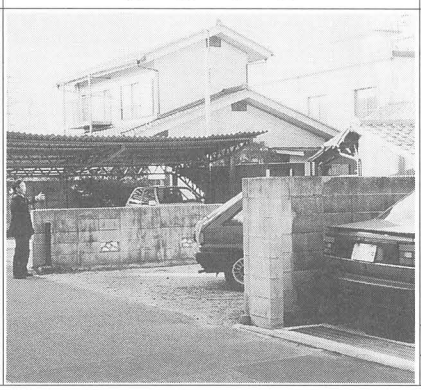
調査年月日	1993年2月8日
調査者	石井　悠

番　号	（武）愛媛12	遺跡名	道後今市遺跡（どうごいまいち）	所在地	松山市道後今市北1053 ［一万市筋（旧地名）］	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱ式　10 銅鐸 銅矛			立地	松山城山の東北平地部（海抜約30ｍ）	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	不明	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	高橋健自「銅鉾銅剣の研究」1925年

遺跡の位置図（松山北部）



遺跡写真



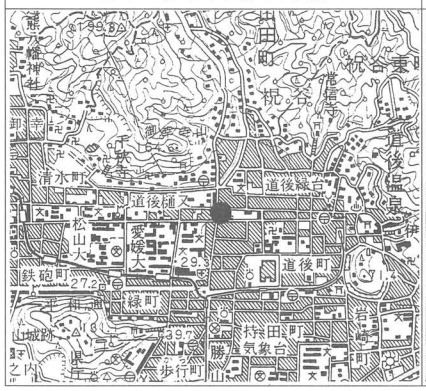
備考

同行者　西尾幸則

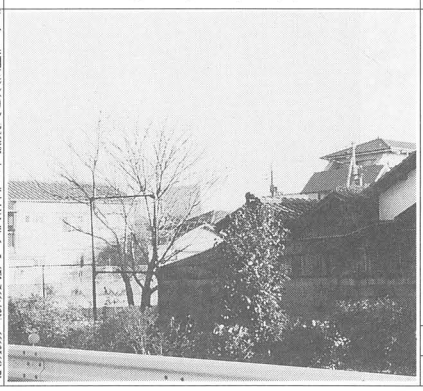
調査年月日	1993年12月８日
調査者	石井　悠

番　号	（武）愛媛13	遺跡名	道後樋又遺跡（どうごひまた）	所在地	松山市道後樋又	発見年	不明
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱｂ式　７～８ 銅鐸 銅矛			立地	平地	所有者	秋田友一
				発見の経緯	不明	保管場所	秋田友一
						指定の状況	遺跡 遺物　松山市指定文化財（考古資料）２
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	松岡文一「宇和町の弥生時代の文化」（愛媛考古学６）1964年

遺跡の位置図（松山北部）



遺跡写真



備考

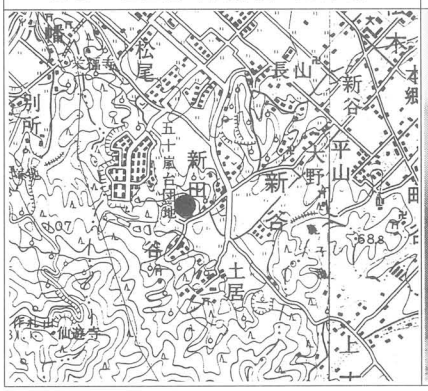
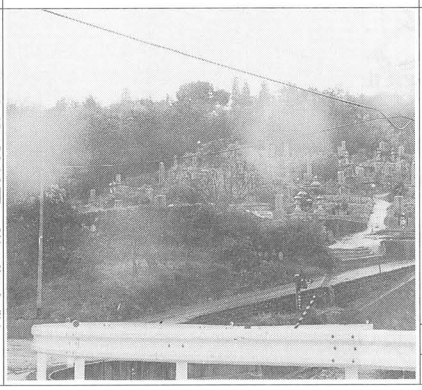
実見した銅剣は愛媛県史の桧垣家１及び２にあたる。

他に｛愛媛大附属小　１／福岡八幡神社　１／石鎚神社　１／不明　３｝という

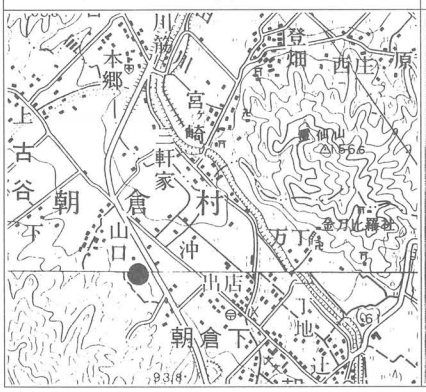
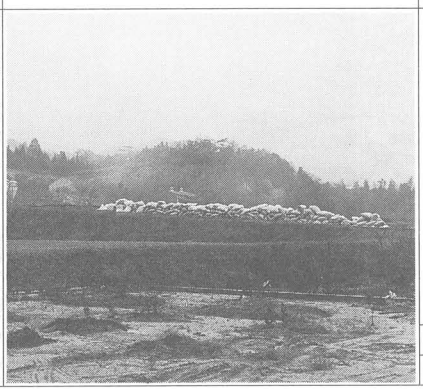
同行者　西尾幸則

調査年月日	1993年12月８日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛16	遺跡名	鷹取神社 裏山遺跡	所在地	愛媛県今治市新谷土居ワキ地	発見年	1926年以前
青銅器の種類	銅剣　細形（鋒のみ）　1 銅鐸 銅矛			立　地	丘陵斜面	所有者	青野　徹
				発見の経緯	不明	保管場所	今治城
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	『愛媛県史』1986年

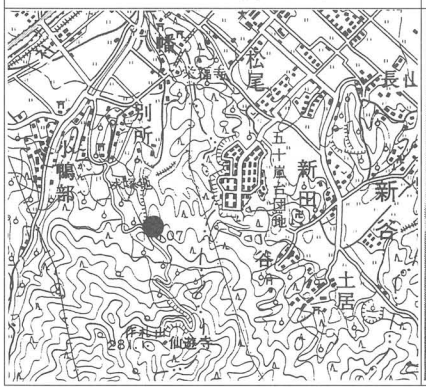
遺跡の位置図（今治西部・今治東部）	遺　跡　写　真	備　考
		同行者　岡田敏彦 調査年月日　1993年12月10日 調　査　者　石井　悠

番　号	(武) 愛媛17	遺跡名	保田遺跡	所在地	愛媛県越智郡朝倉村下保田1038	発見年	1963年
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅰ式　1 平形Ⅱ式　4 銅鐸 銅矛			立　地	海抜25ｍのなだらかな扇状地	所有者	文化庁
				発見の経緯	耕作中の発見	保管場所	国立歴史民俗博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	先を東北に向け刃を垂直に鎬を水平に発見	文　献	『愛媛県史』1986年

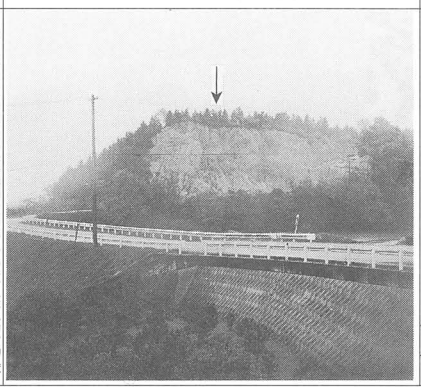
遺跡の位置図（今治東部・西条）	遺　跡　写　真	備　考
		同行者　岡田敏彦 調査年月日　1993年12月10日 調　査　者　石井　悠

番　号	（武）愛媛18	遺跡名	別所新池遺跡（べっしょしんいけ）	所在地	愛媛県越智郡玉川町大字別所	発見年	1964年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形　2			立地	新池の東南側の標高107ｍの山の八合目付近	所有者	文化庁
				発見の経緯	農道改善工事に伴う採土の切取り中、地表下２ｍあたりで発見	保管場所	国立歴史民俗博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	『愛媛県史』1986年

遺跡の位置図（今治西部）



遺跡写真



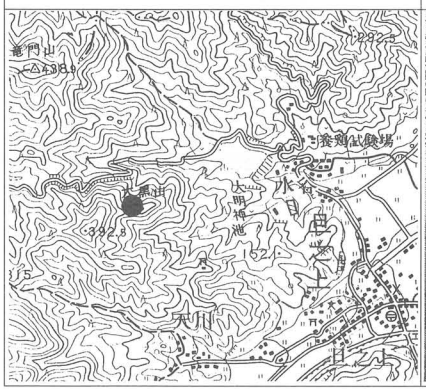
備考

同行者　岡田敏彦

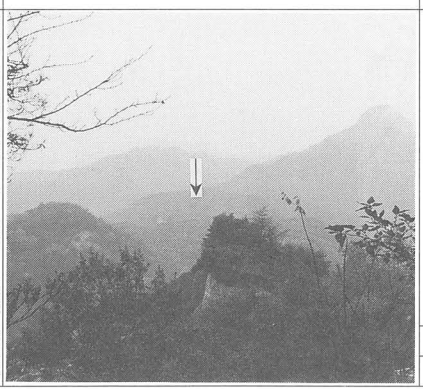
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	（武）愛媛19	遺跡名	大黒山遺跡（だいこくやま）	所在地	愛媛県東予市旦之上（だんのうえ）大黒山	発見年	1799年
青銅器の種類	銅剣……または戈　1 銅鐸 銅矛　1 （どちらも所在不明）			立地	大明神川の沖積地を臨む標高392ｍの山の頂上から尾根を少しくだったところ。	所有者	
				発見の経緯	大黒山の抜け崩れたところから農夫が掘り起こした。	保管場所	
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	松井知衡「必笑雑話」1826年

遺跡の位置図（西条）



遺跡写真



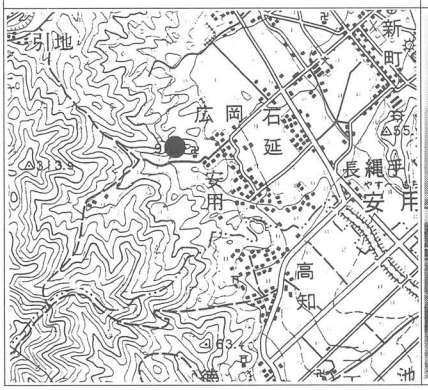
備考

同行者　岡田敏彦

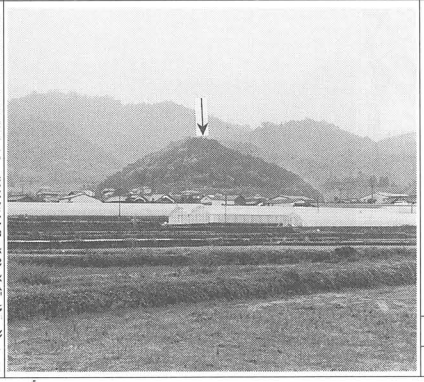
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛20	遺跡名	竹谷藤蔵寺遺跡	所在地	愛媛県東予市広岡竹谷	発見年	江戸時代
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅰ式　2 銅鐸 銅矛			立　地	中山川の沖積平野に面した丘陵先端の独立丘陵の背後	所有者	藤蔵寺
				発見の経緯	不明	保管場所	藤蔵寺
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文　献	『東予市史』1987年

遺跡の位置図（西条）



遺　跡　写　真



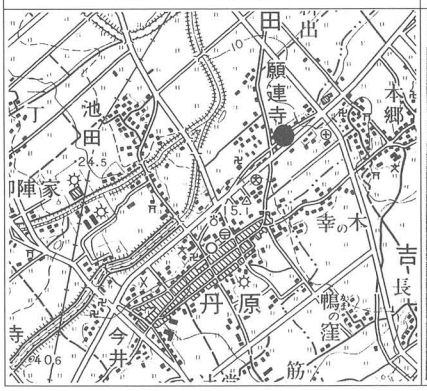
備　　考

同行者　岡田敏彦

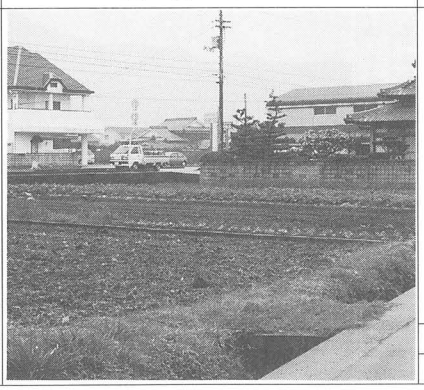
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 愛媛21	遺跡名	扇田遺跡	所在地	愛媛県周桑郡丹原町願蓮寺扇田	発見年	1894年
青銅器の種類	銅剣　中細形ａ類　1 銅鐸 銅矛			立　地	中山川が形成した扇状地上。	所有者	福岡八幡宮
				発見の経緯	古い湧水池を拡張中に、地下約２ｍから偶然発見。	保管場所	福岡八幡宮
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	『東予市史』1987年

遺跡の位置図（西条）



遺　跡　写　真



備　　考

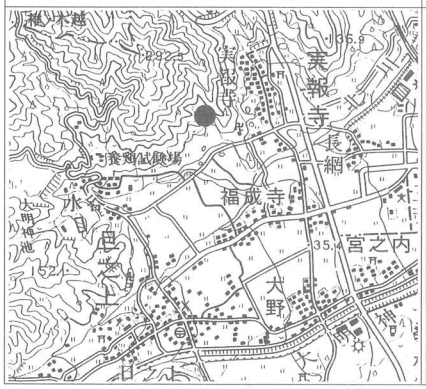
出土地点に道路を挟んでＡ、Ｂの２説あり。（写真はＢ地点）

同行者　岡田敏彦

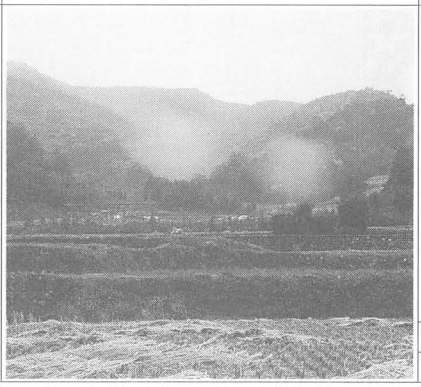
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	（武）愛媛22	遺跡名	天神谷遺跡（てんじんだに）	所在地	愛媛県東予市福成寺（ふくじょうじ）天神谷	発見年	1962年
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅰ式　6 銅鐸 銅矛			立地	大明神川の沖積平野に開口する小扇状地の扇頂部（標高約73ｍ）	所有者	京都国立博物館５ 越智数美１
				発見の経緯	木材搬出用の道路を補修中に出土	保管場所	京都国立博物館 越智数美
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地表下約50㎝のところから一括出土。扁平な花崗岩を数個並べておき、その上に銅剣を置いたと推定される。	文献	『東予市史』1987年

遺跡の位置図（西条）



遺跡写真



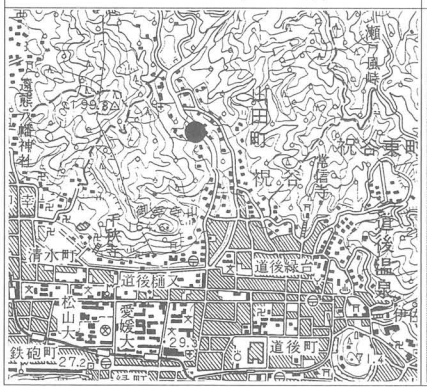
備考

同行者　岡田敏彦

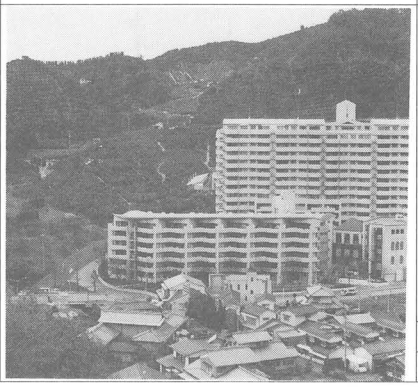
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	（武）愛媛29	遺跡名	祝谷六丁場遺跡（いわいだにろくちょうば）	所在地	松山市祝谷６丁目	発見年	1988年２月
青銅器の種類	銅剣　平形Ⅱ式　1 銅鐸 銅矛			立地	丘陵裾の斜面	所有者	松山市教育委員会
				発見の経緯	発掘調査による	保管場所	松山市立埋蔵文化財センター
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	平面プラン長楕円形を呈する埋納壙内より検出された。 埋納時には刃部を北に向け、垂直に埋納されていたと、調査者は推定している。	文献	松山市教育委員会『祝谷六丁場跡―調査報告１―』1991年

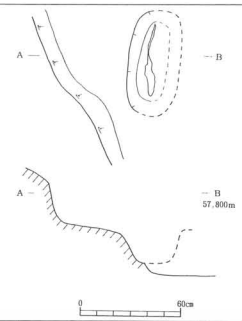
遺跡の位置図（松山北部）



遺跡写真



備考

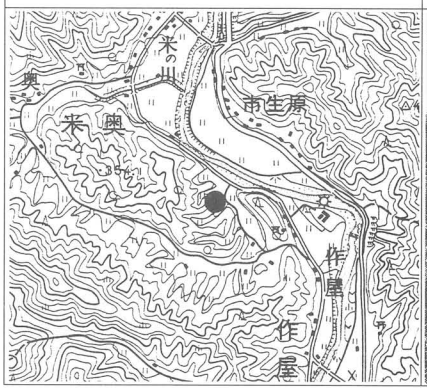


同行者
西尾幸則

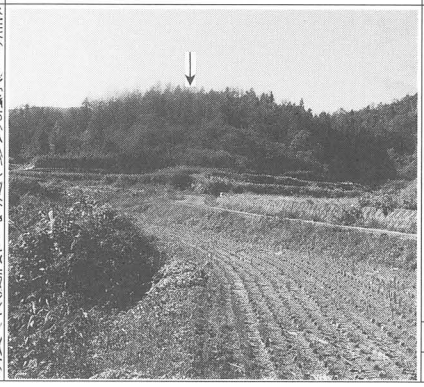
調査年月日	1993年12月10日
調査者	石井　悠

番　号	(武) 高知10	遺跡名	ホコノコシ遺跡	所在地	高知県高岡郡 窪川町作屋ホコノコシ	発見年	1943年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形Ⅱ式　1 (鋒側半分)			立　地	四万十川に面した小さい谷のゆるやかな南向き斜面。	所有者	高知県立歴史民俗資料館
				発見の経緯	畑の開墾中。	保管場所	高知県立歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文　献	岡本健児「高知県発見の銅矛について」『高知の研究』1　1983年

遺跡の位置図（窪川）



遺　跡　写　真



備　　考

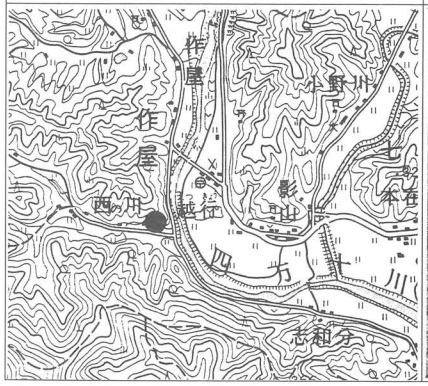
市生原所在高賀茂神社所蔵の銅矛6本のうち、袋部だけのものと同一個体の可能性を指摘する旨あり。

同行者　田井泰雄・武田正一

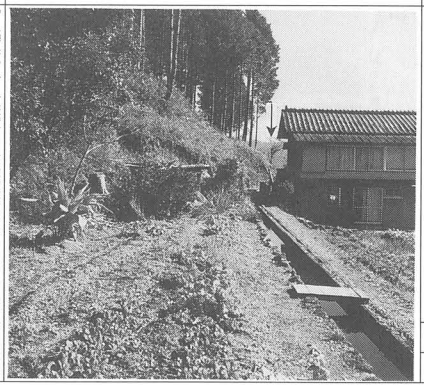
調査年月日	1993年11月15日
調　査　者	足立克己・鳥谷芳雄

番　号	(武) 高知11	遺跡名	西ノ川口遺跡（にしのかわぐち）	所在地	高知県高岡郡窪川町作屋西の川丙777	発見年	1935年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　広形　4 中広形　1			立　地	四万十川に注ぐ支流が形成した小さな谷の南向き斜面。	所有者	高知県立歴史民俗資料館
				発見の経緯	山裾に沿って水路をつくるため、斜面を削った際に出土。	保管場所	高知県立歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡　なし 遺物　なし
伴出遺物	なし			出土状況	地表下約1.8mのところから、斜面の等高線に直交する形で、刃を立てた状態で出土。広形4の間に中広形1を打ちちがえて並べる。	文　献	岡本健児「埋納穴を有せる銅鉾形祭器」『季刊どるめん』7　1975年

遺跡の位置図（窪川）



遺　跡　写　真



備　　考

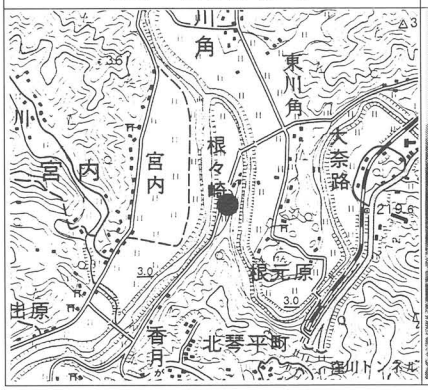
1970年出土地点を発掘調査。埋納坑の一部を検出。埋納坑は最大幅92cm、穴上部126cm、口径62cm、深さ104cmの袋状小竪穴。

同行者　田井泰雄・武田正一

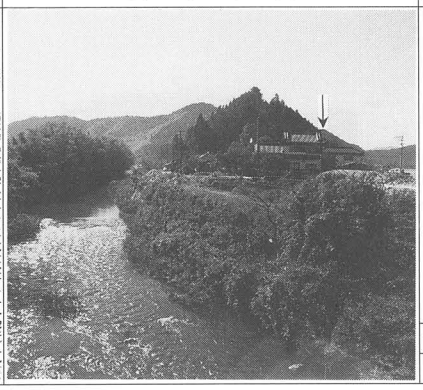
調査年月日	1993年11月15日
調　査　者	足立克己・鳥谷芳雄

番　号	（武）高知12	遺跡名	根々崎（ねねざき）遺跡	所在地	高知県高岡郡窪川町根々崎	発見年	1657年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形４、広形１			立地	四万十川と支流、東又川の合流点に形成された盆地の中の、両河川に挟まれた丘陵西側山裾に位置する	所有者	高岡神社
				発見の経緯	用水路掘割中に発見	保管場所	高岡神社
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文献	岡本健児『高知県史』考古編 1968年

遺跡の位置図（窪川）



遺跡写真



備考

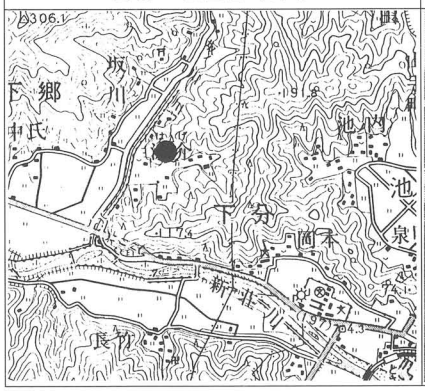
- 中広２本は鋒部欠損残り２本は折れたところを鉄板を打ちつけて、鋲で幾箇所も止めて接続
- 耳に後世、円形の穿孔
- 広形１本も刃部中程を鉄板で補強

同行者　田井泰雄・武田正一

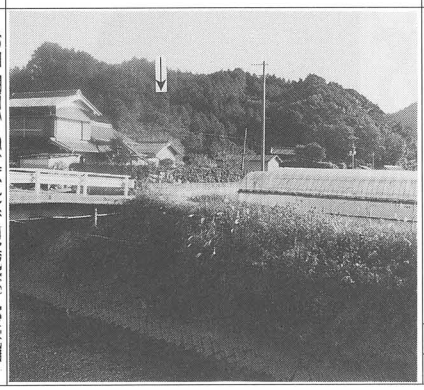
調査年月日	1993年11月15日
調査者	足立克己・鳥谷芳雄

番　号	（武）高知15	遺跡名	波介（はげ）遺跡	所在地	高知県須崎市波介	発見年	1954年
青銅器の種類	銅剣｛１号銅剣　中細形ｃ類 ２号銅剣　中細形ａ類 ３号銅剣　中細形ａ類｝ 銅鐸 銅矛			立地	新荘川支流坂ノ川の沖積地に向かって開口する小さな谷の南向き斜面	所有者	文化庁
				発見の経緯	開墾中	保管場所	東京国立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	鋒を西、茎を東の方向に向け、ほぼ水平に上から２号、３号、１号の順に重ねる。	文献	文化財保護委員会「高知県須崎市波介出土細形銅剣」『埋蔵文化財要覧』２　1959年

遺跡の位置図（須崎）



遺跡写真



備考

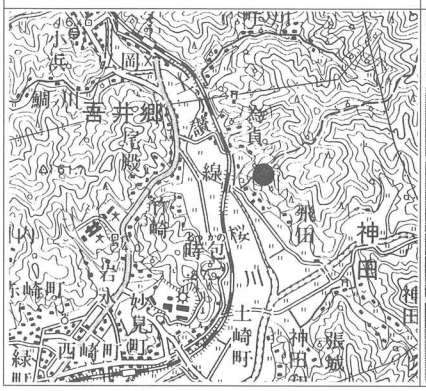
- １号　全長50.5cm
- ２号　全長36.8cm
  刃部中程で二つに折れる元翼部に穿孔あり
- ３号　全長37.5cm
  元翼部に双孔あり

同行者　香崎和平

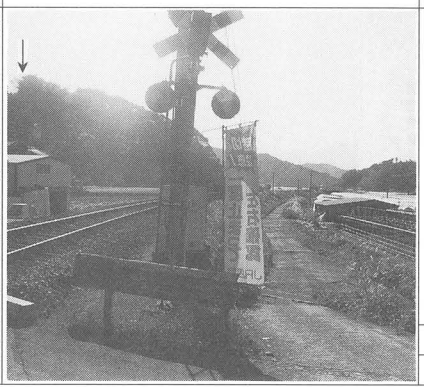
調査年月日	1993年11月16日
調査者	足立克己・鳥谷芳雄

番　号	(武) 高知16	遺跡名	多ノ郷飛田遺跡	所在地	高知県須崎市多ノ郷飛田坂本1729番地	発見年	1884年
青銅器の種類	銅剣 銅鐸 銅矛　中広形Ⅱ式1 中広形Ⅱ式または広形1（どちらも所在不明）			立　地	桜川の沖積地に突き出した舌状の山丘の先端部で、尾根上の平坦面の先端。	所有者	
				発見の経緯	おそらく山畑の開墾に伴うものと思われる。	保管場所	
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文　献	高橋健自『銅鉾銅剣の研究』1925年

遺跡の位置図（須崎）



遺跡写真



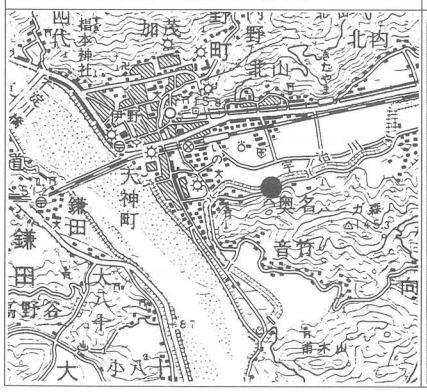
備考

同行者　香崎和平

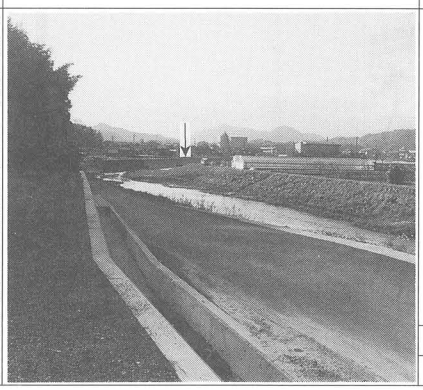
調査年月日	1993年11月16日
調　査　者	足立克己・鳥谷芳雄

番　号	(武) 高知18	遺跡名	天神遺跡	所在地	高知県吾川郡伊野町天神溝田	発見年	1959年
青銅器の種類	銅剣　中細形　a類　1 葉部に双孔あり 身中央で折れ曲がる 銅鐸 銅矛 中広銅戈（内は欠損）			立　地	仁淀川の支流の宇治川が形成した沖積地の南辺山裾に位置	所有者	森本鶴吉
				発見の経緯	宇治川の治水工事作業中	保管場所	森本鶴吉
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	青銅器出土地点の約50m下流で、青銅器が包含されていた層と同じ灰色粘土層から弥生後期後半の土器とともに炉跡状の遺構発見。			出土状況	5m間隔で出土	文　献	岡本健児「高知県伊野町天神出土の銅剣・銅戈」『高知県文化財調査報告書』第12集　1962年

遺跡の位置図（伊野）



遺跡写真



備考

南東背後丘陵上に高地性集落あり

同行者　岡本健児

調査年月日	1993年11月14日
調　査　者	足立克己・鳥谷芳雄